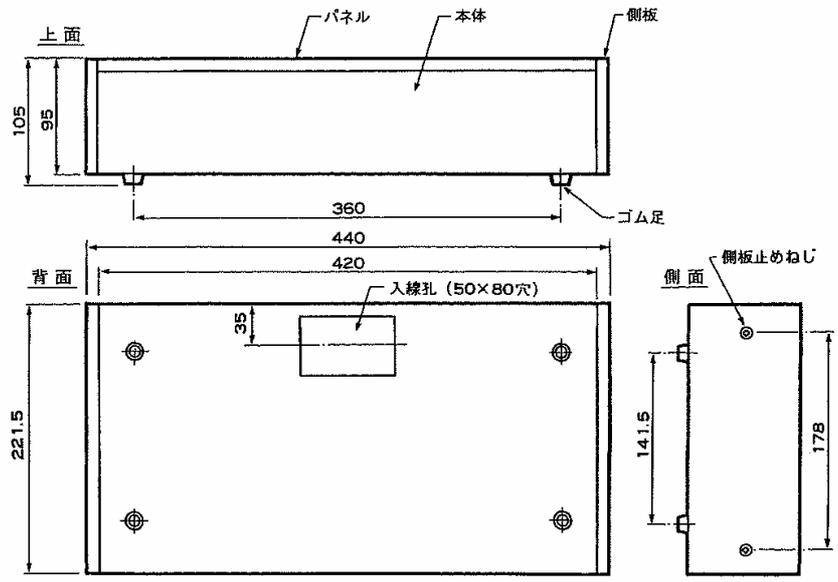
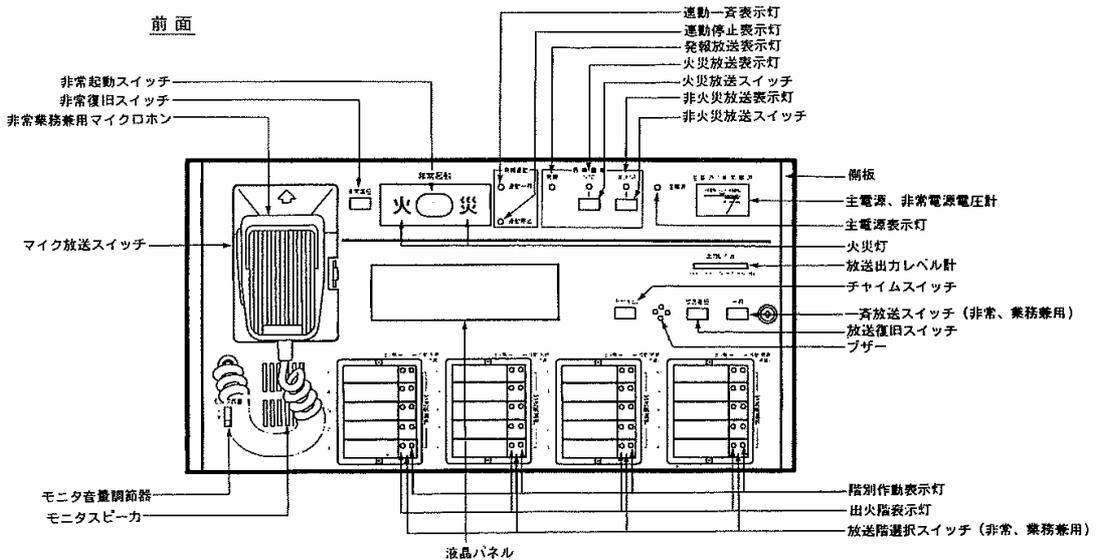


対象機種	ERM-5202Bシリーズ	非常業務リモコン(20局) ERM-5202B 増設ユニット(10局) ERB-2102 増設ユニット(20局) ERB-2202
-------------	----------------------	---

このたびはユニペックス非常業務リモコンをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
 お求めの非常業務リモコンを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。お読み
 になったあとは必ず保存してください。

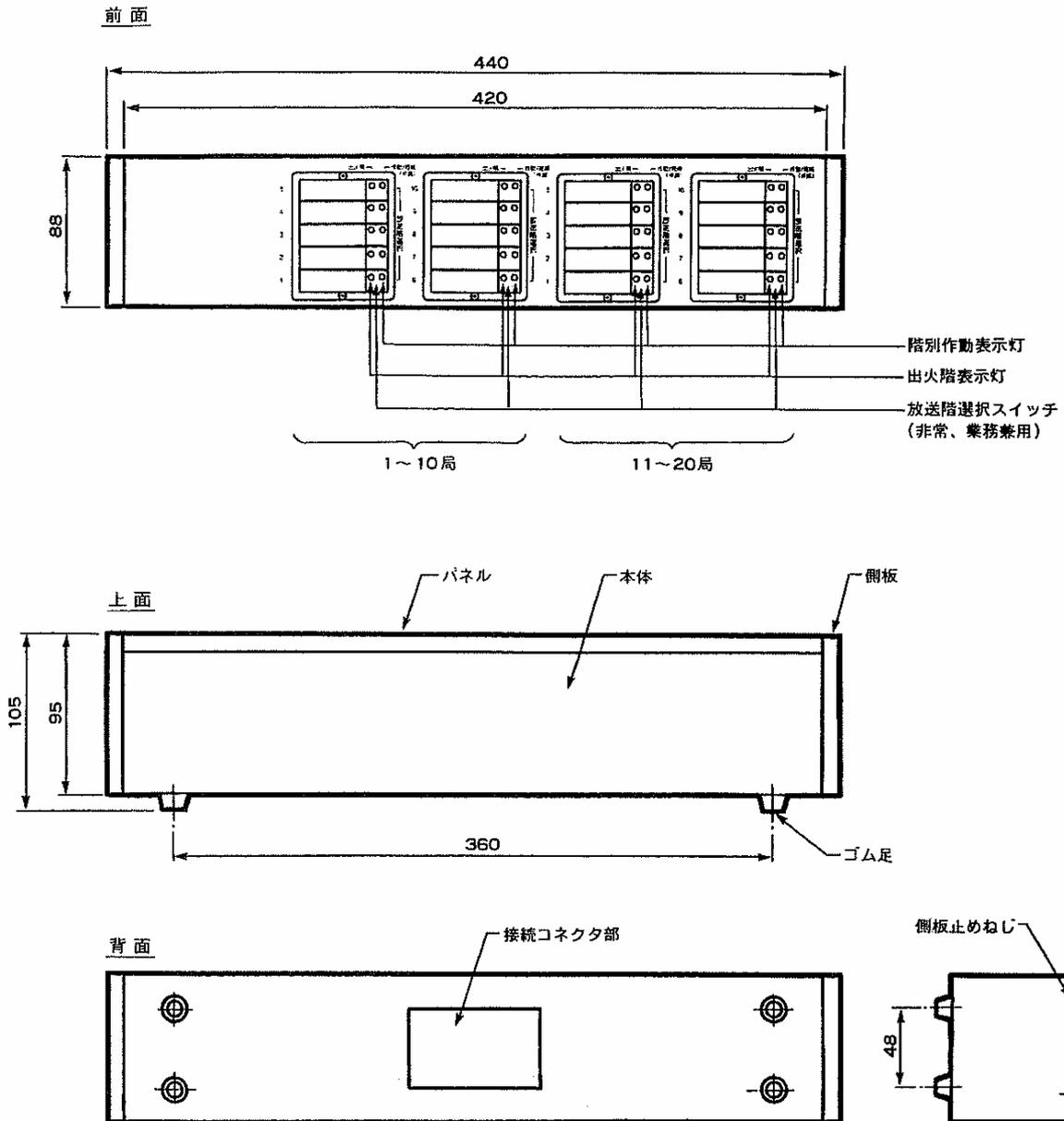
各部のなまえと大きさ

●非常業務リモコン



工事店様へ 工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。
 お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

● 増設ユニット



※ 本外観図は、 ERB-2202 (20局) の図です。

ERB-2102 (10局) は、階別作動表示灯、出火階表示灯、放送階選択スイッチが 1~10局のみとなります。

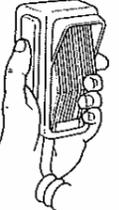
各パネルの各部のなまえとはたらき

① 非常起動スイッチ
 ● 手動で非常放送するときおよび火災放送するときを押します。

② 火災灯
 ● 自火報(自動火災報知設備)または非常起動スイッチからの起動により点灯または点滅します。
 ● 感知器起動時および手動起動時の火災放送移行へのタイマー動作中は点滅します。

③ 非常復旧スイッチ
 ● 非常放送終了時に押します。
 ● 非常放送が復旧します。

④ 非常・業務兼用マイクロホン
 ● トークスイッチを押しながら放送します。



⑤ マイク扉
 ● 開けると内部に運動切換、点検、書き込み等のスイッチがあります。

⑥ モニタスピーカ
 ● 放送内容をモニタできます。
 ● 非常放送時は操作ガイドの音声がかかります。

⑦ モニタ音量調節器
 ● モニタスピーカの音量を調節できます。大、中、小の3段階に調節できます。
 ● 非常・業務兼用マイクロホンを使用時にはハウリング防止のため、トークスイッチを押すと自動的にモニタ音量は低下します。

⑧ 連動一斉表示灯
 ● 自火報との運動を連動一斉に設定したときに点灯します。
 ● 設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。

⑨ 連動停止注意灯
 ● 自火報との運動を停止に設定したときに点灯します。
 ● 設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。

発報運動
 連動一斉
 連動停止

音声警報
 発報 火災 非火災

⑩ 発報放送表示灯
 ● 発報放送中に点灯します。

⑪ 火災放送表示灯
 ● 火災放送中に点灯します。

⑫ 火災放送スイッチ
 ● 火災放送する時に押します。

⑬ 非火災放送表示灯
 ● 非火災放送中に点灯します。

⑭ 非火災放送スイッチ
 ● 非火災放送する時に押します。

⑮ 主電源表示灯
 ● 電源が供給されている時点灯します。

⑯ 主電源/非常電源電圧計
 ● 常時は主電源電圧を表示します。
 ● 蓄電池点検時は、蓄電池の電圧を表示します。

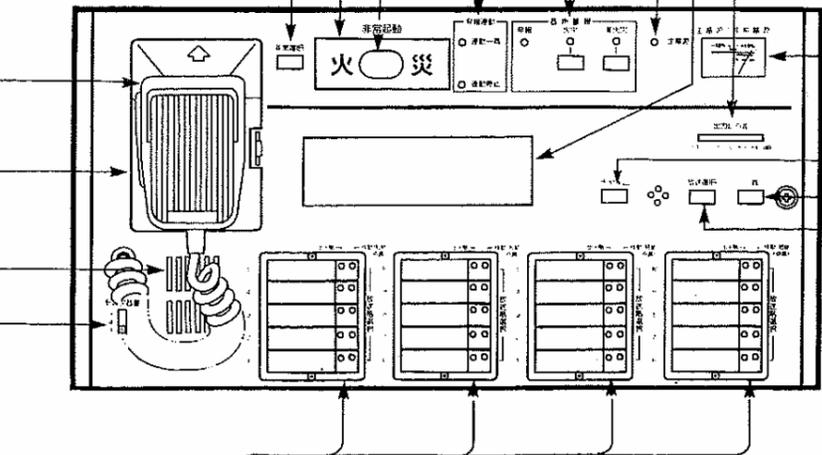
⑰ 液晶パネル
 ● 次の内容について、必要に応じて、表示します。
 ● 書き込み設定の操作ガイド
 ● 非常放送時の操作ガイド
 ● 業務放送時の動作表示
 ● 異常時の内容表示
 ● 点検時の内容表示

⑱ 放送出力レベル計
 ● 放送される音の出力レベルを表示し音の大小に応じて点灯します。
 ● 音が大きすぎると赤色が点灯します。緑色が点灯する範囲でご使用ください。

⑲ チャイムスイッチ
 ● 放送前の予告音としてチャイム音を放送する時に押します。
 ● 4音の電子チャイム音が、1回放送されます。

⑳ 一斉放送スイッチ
 ● 非常および業務放送時、全回線一斉に放送するときに押します。
 ● 再度押すと復旧します。

㉑ 放送復旧スイッチ
 ● 放送終了時に押します。
 ● 選択されていた回線が解除され復旧します。



㉒ 出火階表示灯
 ● 自火報(自動火災報知設備)等から起動がかかると点灯し、出火階を表示します。

㉓ 作動表示灯(短絡表示灯兼用)
 ● 放送先が選択され放送可能になったとき点灯します。
 ● スピーカ回線が短絡すると保護ヒューズが溶断しその回線は自動的に切り離され作動表示灯は点滅します。

出火階
 作動/短絡(点滅)
 5
4
3
2
1

㉔ 放送階選択スイッチ
 ● 非常または業務放送時、階別または系統別に放送するときに押します。
 ● 再度押すと復旧します。

マイク扉内

②⑤ 蓄電池点検スイッチ

- 蓄電池の電圧を点検する時に押します。

②⑥ 書き込みスイッチ

- 書き込み時に押します。

②⑦ コンピュータ制御スイッチ

コンピュータ
制御
入
切

- 通常は「入」の位置にします
- 異常等で修理した後このスイッチを「切」にしてから「入」にしてください 正常の動作に戻ります (コンピュータのリセットスイッチ)
- コンピュータが異常となったとき、コンピュータ制御スイッチを「切」にするとハンドマイクにより一斉放送ができます。

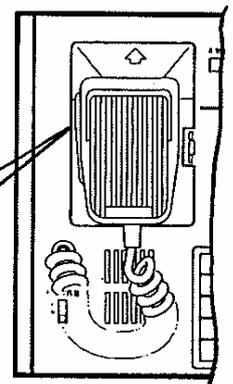
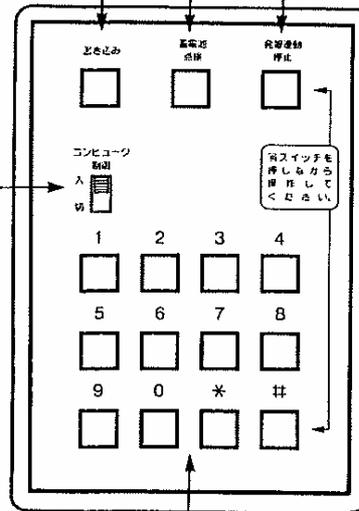
②⑧ テンキースイッチ

- 書き込み・点検等の時に使用します。

②⑨ 発報連動停止スイッチ

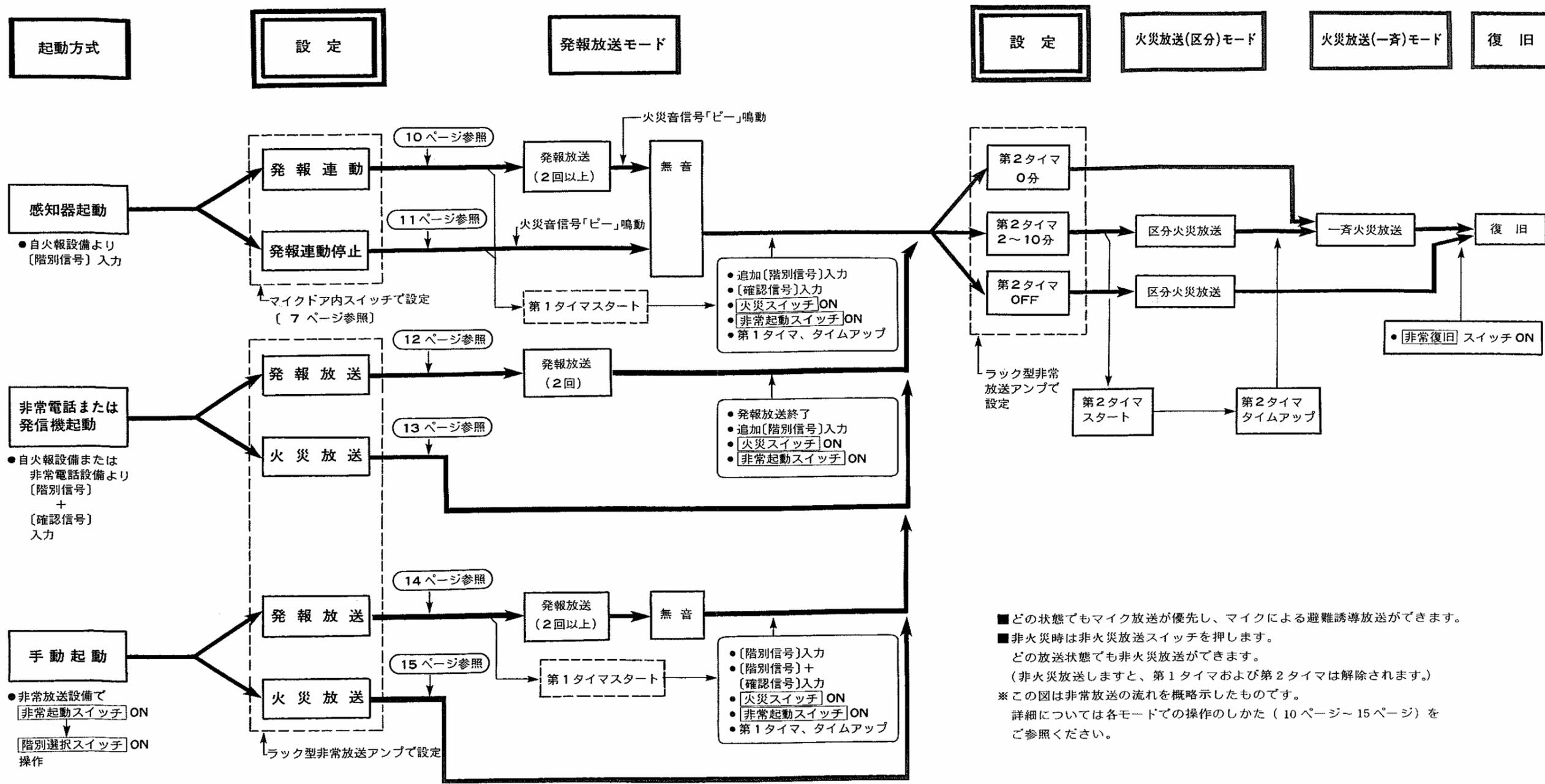
- 感知器からの起動時の連動条件を設定します。
- 囲スイッチを押しながら押しますと順次モードが下表のとおり変わり、表示灯が点灯、消灯します。

モード	⑧連動一斉 表示灯	⑨連動停止 表示灯
連 動	消 灯	消 灯
連動一斉	点 灯	消 灯
連動停止	消 灯	点 灯



非常放送のしかた

- 非常放送設備は火災発生時に音声合成による音声警報（シグナル音+メッセージ）を自動的に送出します。
- 起動方式および設定により動作（操作方法）が異なります。（下図をご参照ください。）
あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。



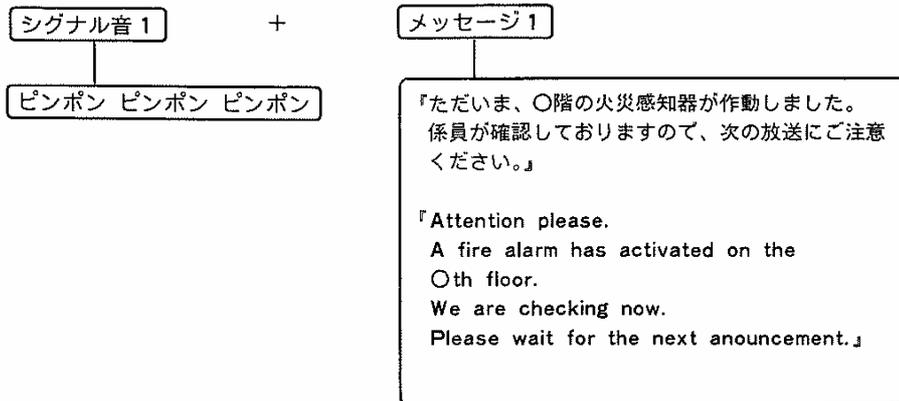
■どの状態でもマイク放送が優先し、マイクによる避難誘導放送ができます。
 ■非火災時は非火災放送スイッチを押します。
 どの放送状態でも非火災放送ができます。
 (非火災放送しますと、第1タイマおよび第2タイマは解除されます。)
 ※この図は非常放送の流れを概略示したものです。
 詳細については各モードでの操作のしかた（10ページ～15ページ）をご参照ください。

非常放送の流れ

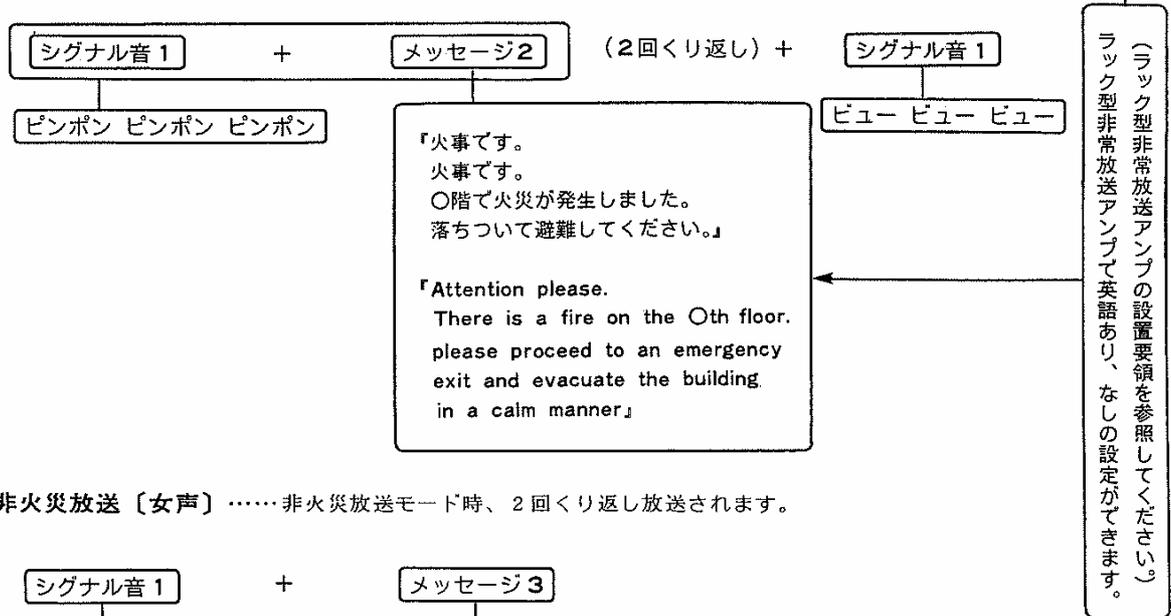
音声警報について

■非常放送時に的確な情報伝達と避難誘導をするための音声合成による放送です。
 シグナル音とメッセージの組み合わせで構成され、次の3種類があります。

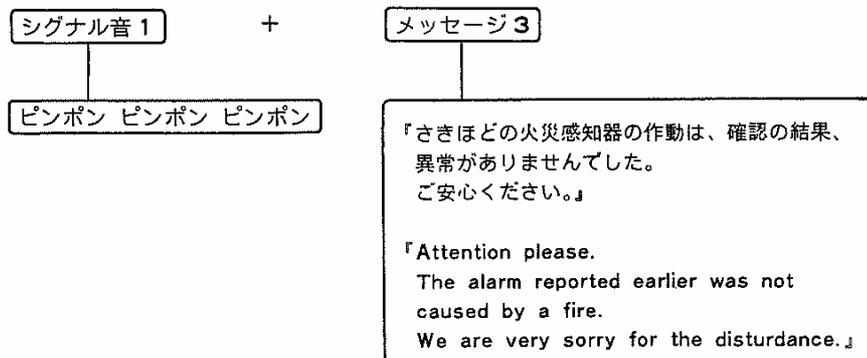
- 発報放送〔女声〕……発報放送モード時2回くり返し放送されます。
 (感知器起動、手動起動時は、連続くり返しに設定変更できます。)
 設定方法は、ラック型非常放送アンプの書き込みのしかたを参照ください。



- 火災放送〔男声〕……火災放送モード時、連続してくり返し放送されます。



- 非火災放送〔女声〕……非火災放送モード時、2回くり返し放送されます。

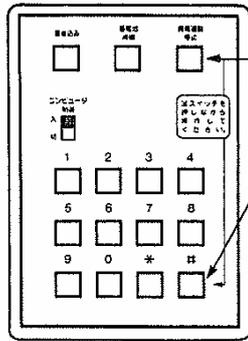


各種設定について

■ 発報連動/発報連動停止の設定…〔感知器起動時の動作モードの設定〕

- 〔動作モード〕
- 発報連動** : 出火階、連動階に発報放送が放送されます。
 - 発報連動停止** : 発報放送は放送されず、本機の火災音ブザーが鳴動します。
 - 発報連動一斉** : すべての階に発報放送が放送されます。

〔設定方法〕 マイク扉内のスイッチ操作で設定します。



(マイク扉内部)

田 スイッチを押しながら発報連動停止スイッチを押します。

- 押すたびに順次設定モードが変わります。
- 設定モードにより表示が次のとおり点灯します。

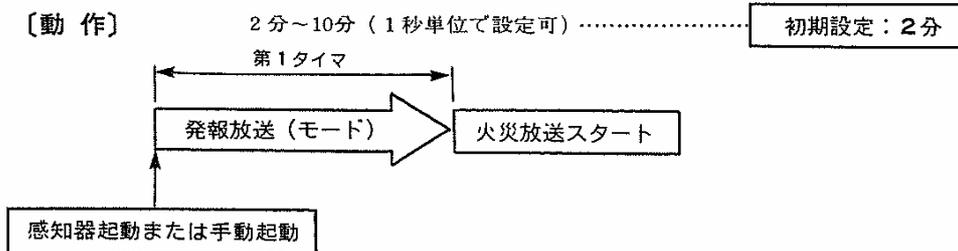
モード	⑧連動一斉 表示灯	⑨連動停止 表示灯
連 動	消 灯	消 灯
連動一斉	点 灯	消 灯
連動停止	消 灯	点 灯

■ 発報放送/火災放送の設定…〔非常電話または発信機起動時、手動起動時の動作モードの設定〕

- 〔動作モード〕
- 発報放送** : 選択された階に発報放送が放送されます。
 - 火災放送** : 選択された階に発報放送が放送されず、火災放送が放送されます。

〔設定方法〕 ラック型非常放送アンプにて設定します。
(ラック型非常放送アンプの設置要領書、取扱説明書を参照してください。)

■ 第1タイマの設定…〔感知器起動時、手動起動時から火災放送へ自動的に移行するタイマ（第1タイマ）の時間設定〕



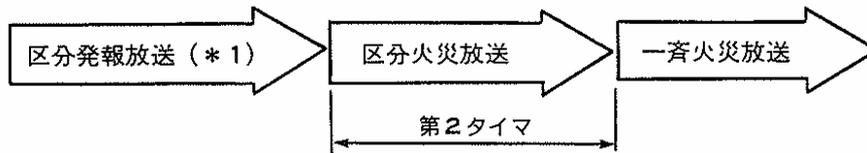
- 火災放送は第2タイマの設定により区分火災放送と一斉火災放送のどちらかとなります。
- ラック型非常放送アンプの非常操作ユニットのマイク扉内のスイッチ操作で『書き込み』設定します。
- ラック型非常放送アンプの書き込みのしかたを参照ください。

■ **第2タイマの設定**…〔区分火災放送から一斉火災放送へ自動的に移行するタイマ(第2タイマ)の時間設定〕

下記の3種類の設定ができます。

出荷時は第2タイマは2分に設定してあります。

〔区分火災放送2～10分の後一斉火災放送へ移行するモード〕：第2タイマ2～10分設定

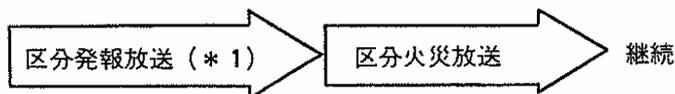


第2タイマは2～10分の間で任意に(1秒単位で)設定できます。

〔区分発報放送後即一斉火災放送へ移行するモード〕：第2タイマ0分設定



〔区分火災放送を継続し、一斉火災放送へ自動的に移行しないモード〕：第2タイマ OFF 設定



(*1) 起動方式設定により区分発報放送がない場合もあります。

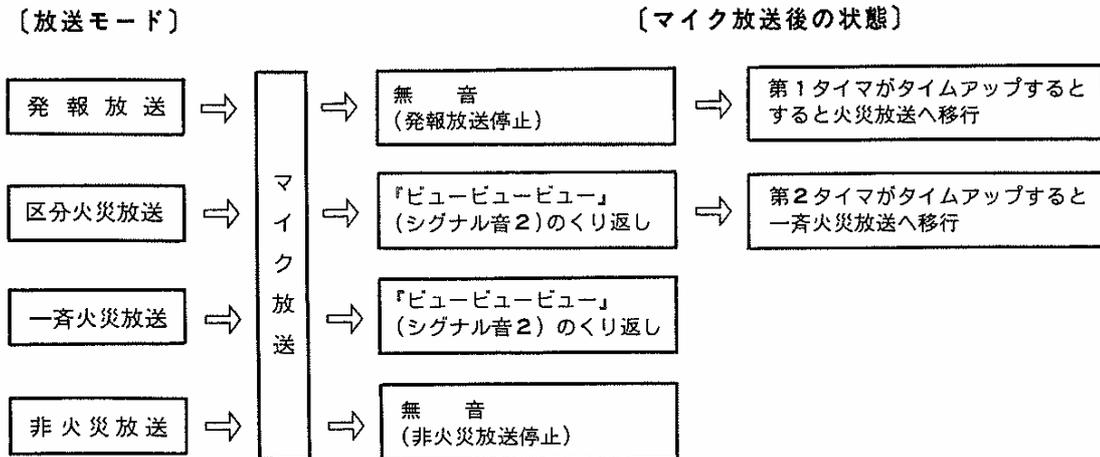
〔設定方法〕

- ラック型非常放送アンプの非常操作ユニットのマイク扉内のスイッチ操作で『書き込み』設定します。
- ラック型非常放送アンプの書き込みのしかたを参照ください。

マイク放送および放送復旧操作について

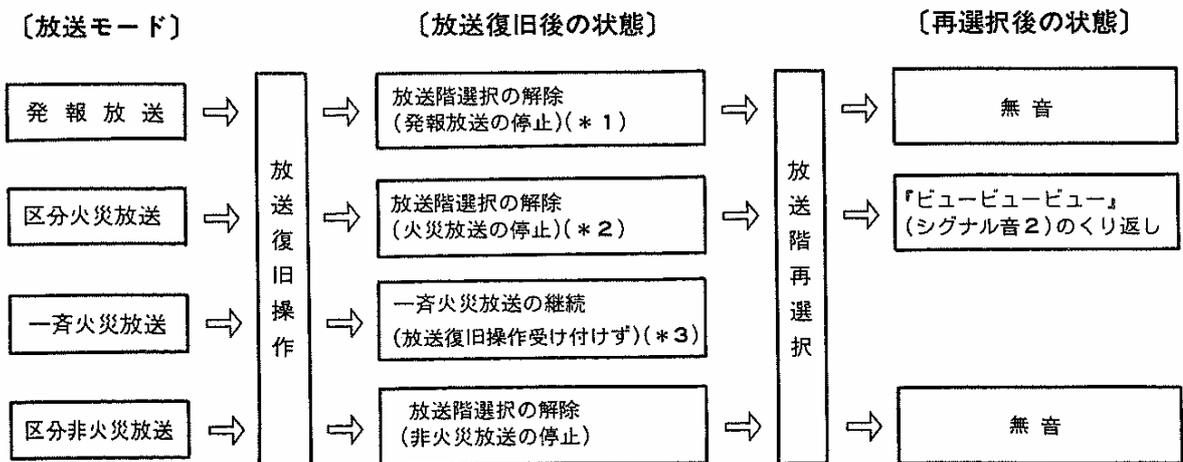
■ マイク放送について

- マイク放送はどの状態においても、音声警報放送より優先します。
- 各放送モードでマイク放送したときの動作は次のとおりです。



■ 放送復旧操作について

- 各放送モードで放送復旧操作（放送復旧スイッチ⑳の操作）したときの動作は次のとおりです。



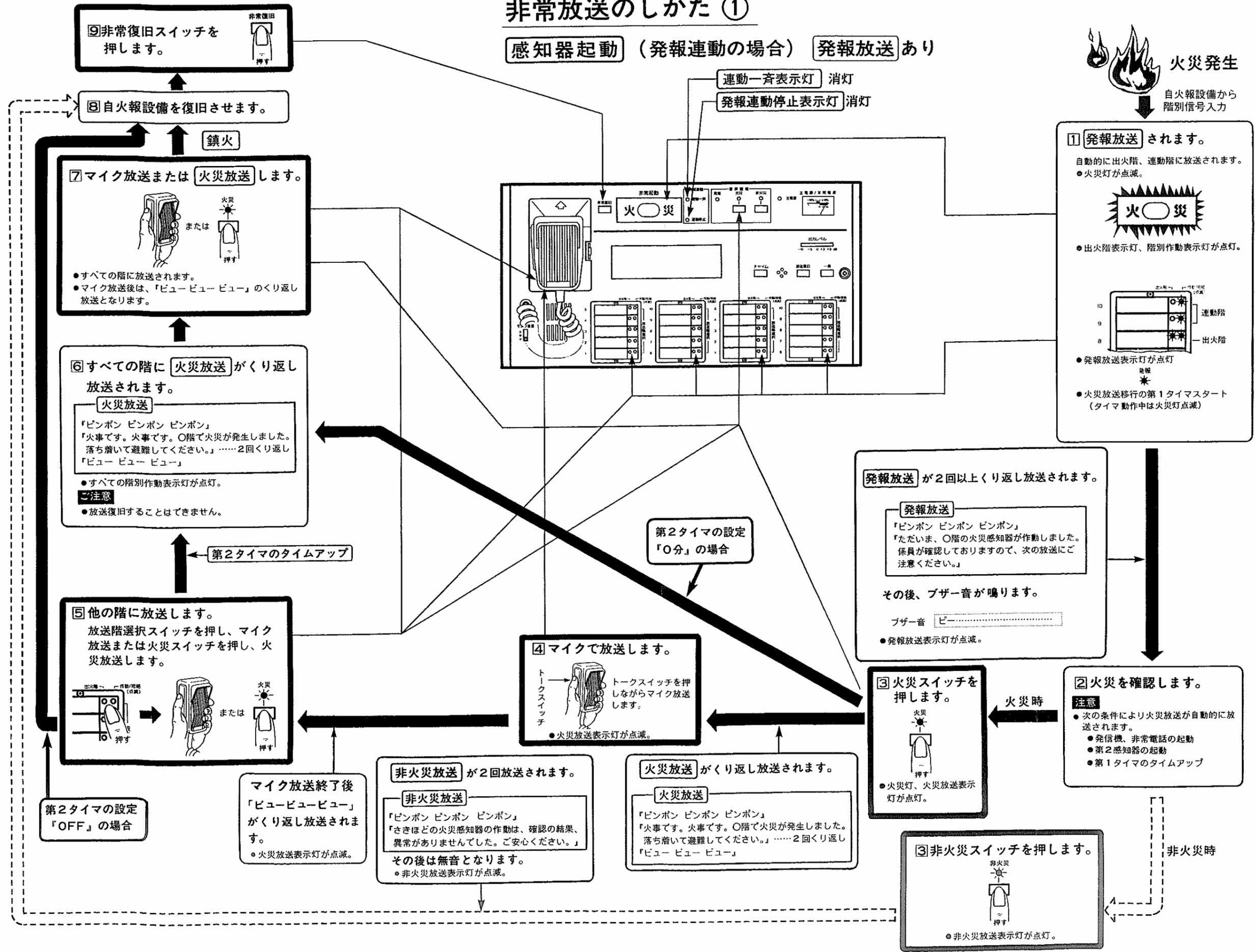
(*1) 第1タイマは、継続動作します。

(*2) 第2タイマは、継続動作します。

(*3) 放送階の解除はできません。一斉火災放送の解除は、非常復旧スイッチを操作して行ないます。

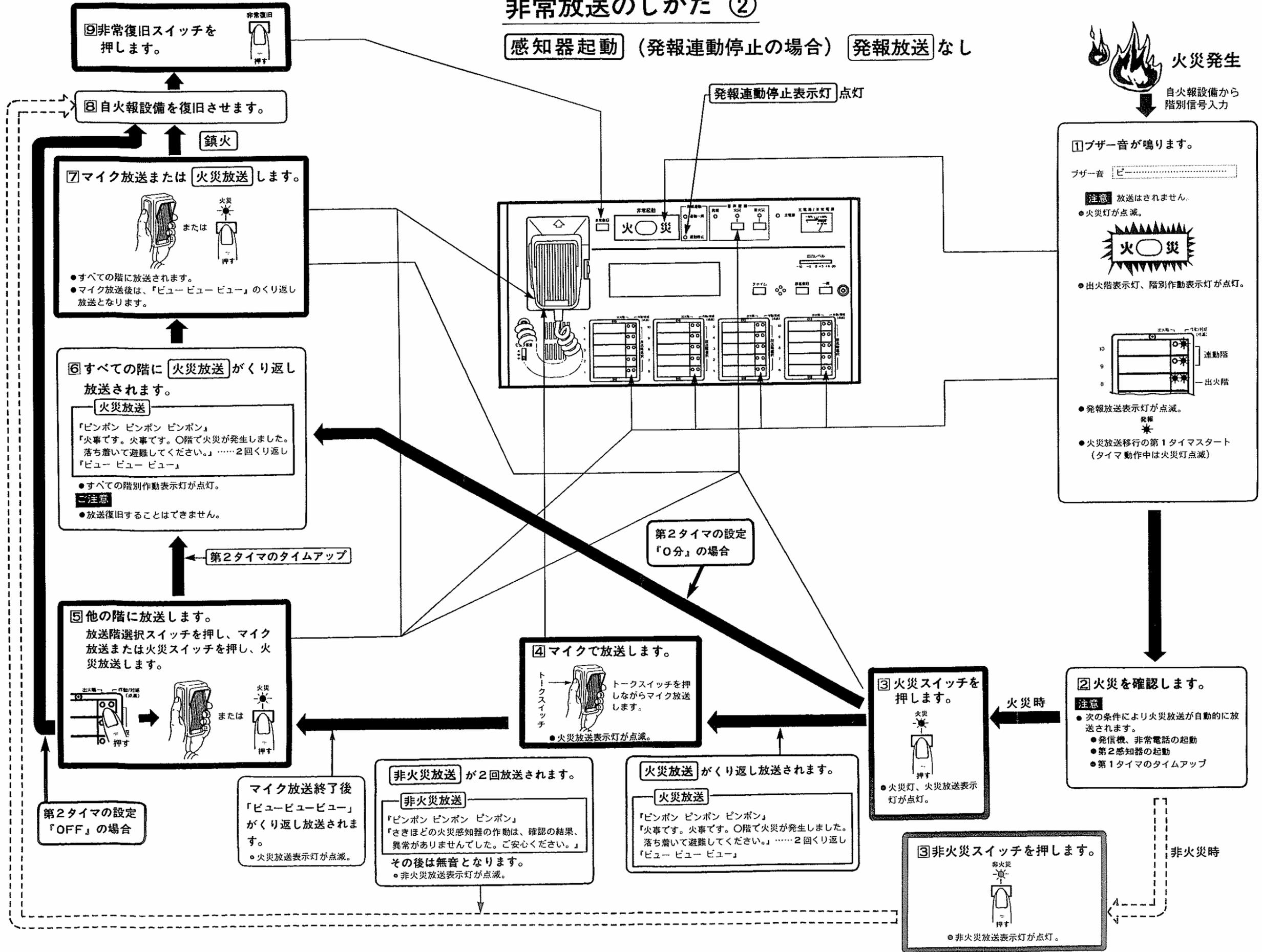
非常放送のしかた ①

感知器起動 (発報連動の場合) 発報放送あり



非常放送のしかた ②

感知器起動 (発報連動停止の場合) 発報放送なし



⑧ 非常復旧スイッチを押します。

⑧ 自火報設備を復旧させます。

⑦ マイク放送または 火災放送 します。

●すべての階に放送されます。
●マイク放送後は、「ビュービュービュー」のくり返し放送となります。

⑥ すべての階に 火災放送 がくり返し放送されます。

「ピンポン ピンポン ピンポン」
「火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」……2回くり返し
「ビュー ビュー ビュー」

●すべての階別作動表示灯が点灯。
●注意
●放送復旧することはできません。

⑤ 他の階に放送します。

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。

④ マイクで放送します。

トークスイッチを押しながらいきながらマイク放送します。

●火災放送表示灯が点滅。

③ 火災スイッチを押します。

●火災灯、火災放送表示灯が点灯。

② 火災を確認します。

●次の条件により火災放送が自動的に放送されます。
●発信機、非常電話の起動
●第2感知器の起動
●第1タイマのタイムアップ

非火災放送 が2回放送されます。

「ピンポン ピンポン ピンポン」
「さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」
その後は無音となります。
●非火災放送表示灯が点滅。

火災放送 がくり返し放送されます。

「ピンポン ピンポン ピンポン」
「火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」……2回くり返し
「ビュー ビュー ビュー」

③ 非火災スイッチを押します。

●非火災放送表示灯が点灯。

第2タイマの設定「OFF」の場合

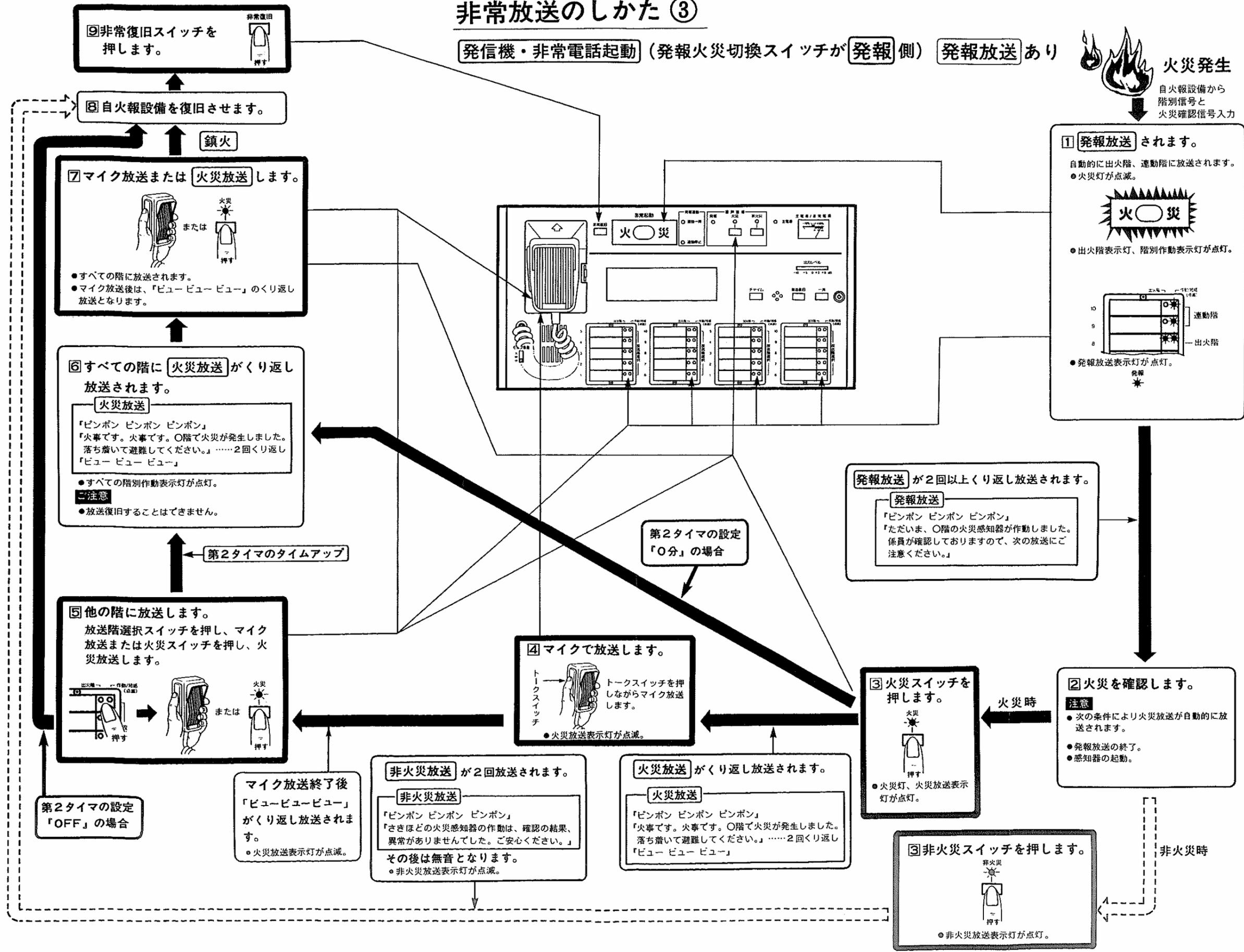
マイク放送終了後「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。
●火災放送表示灯が点滅。

第2タイマの設定「0分」の場合

第2タイマのタイムアップ

非常放送のしかた ③

発信機・非常電話起動 (発報火災切換スイッチが**発報**側) **発報放送**あり



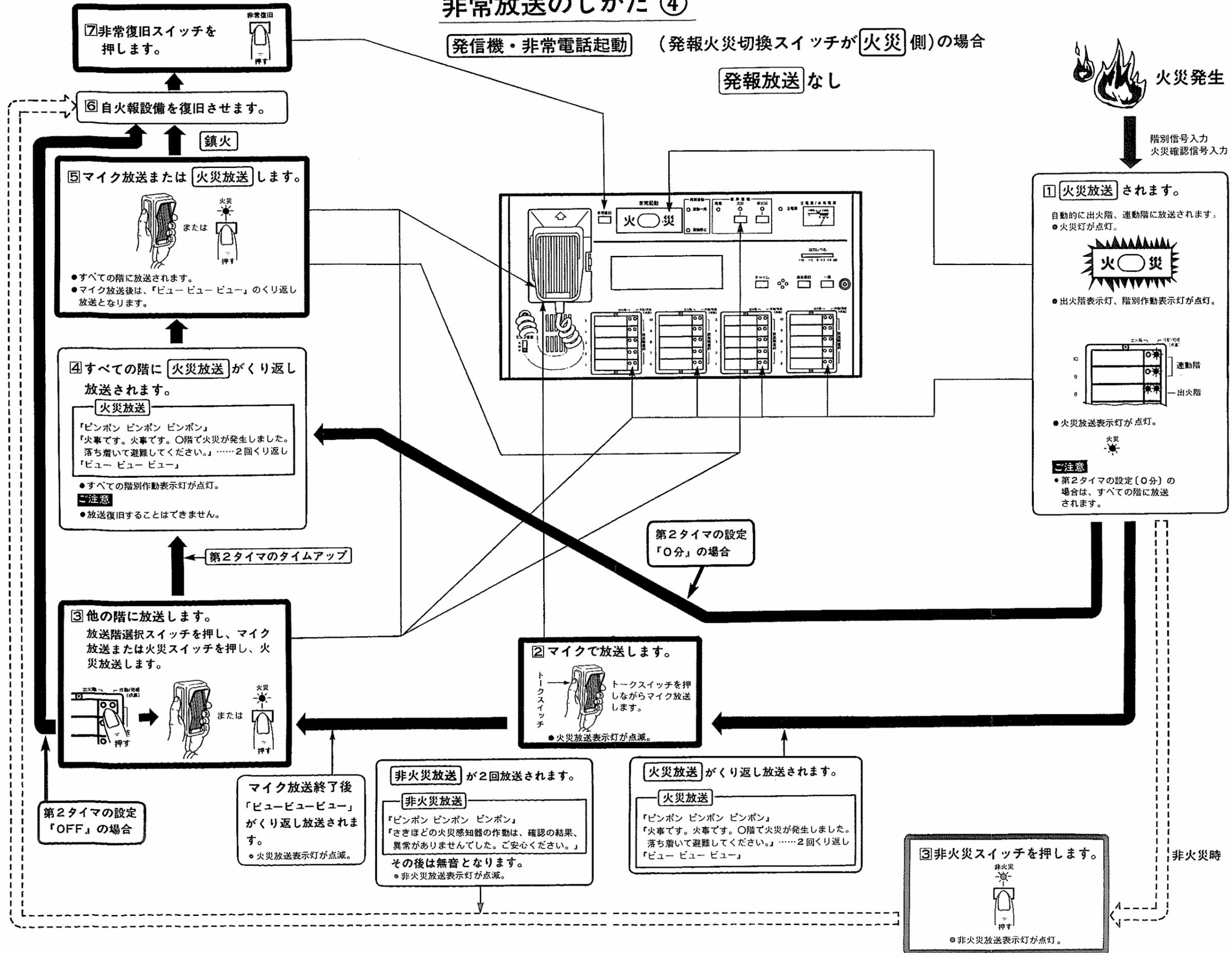
非常放送のしかた ④

発信機・非常電話起動 (発報火災切換スイッチが**火災**側)の場合

発報放送なし



階別信号入力
火災確認信号入力

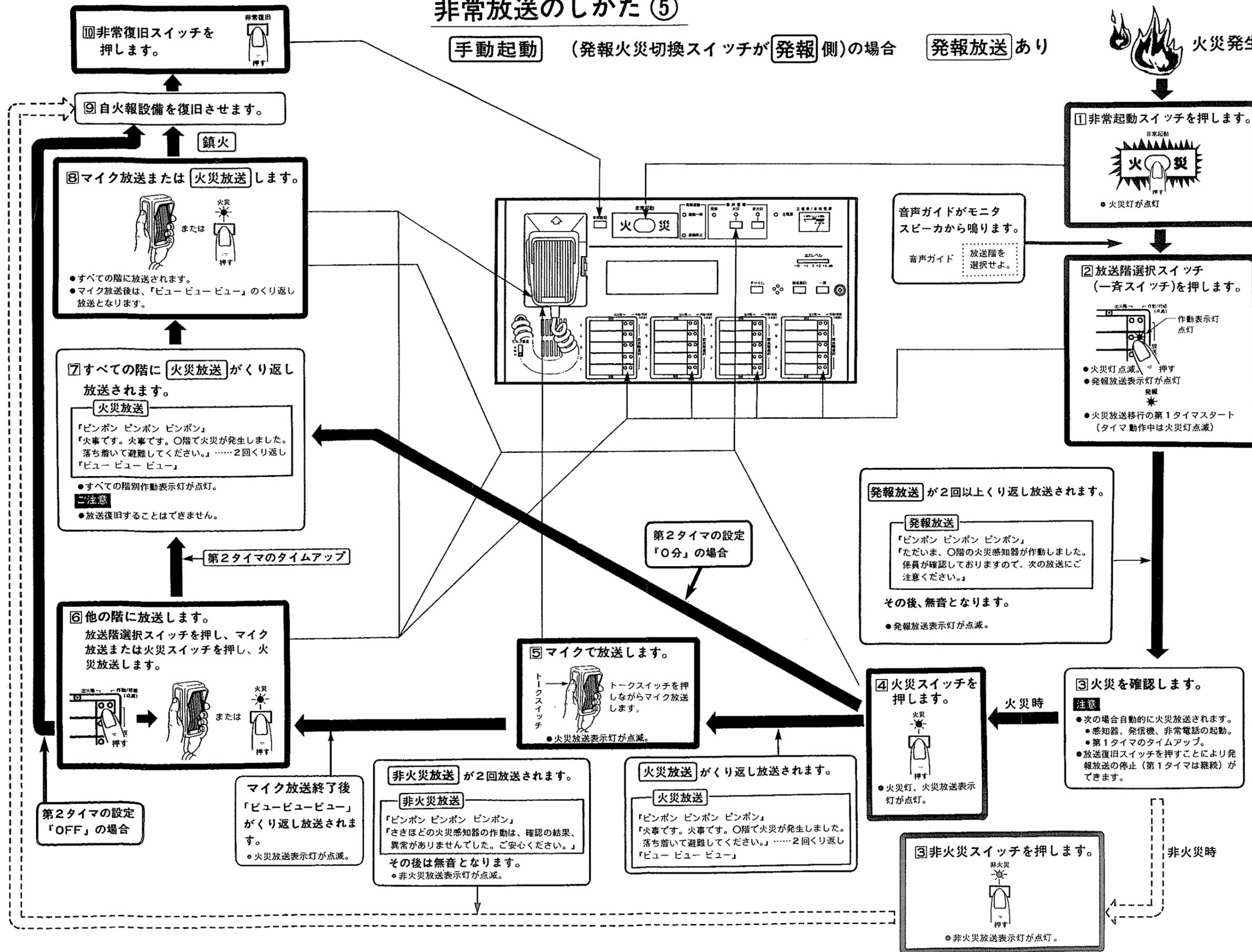


非常放送のしかた ⑤

手動起動

(発報火災切換スイッチが**発報**側)の場合

発報放送あり



1 非常起動スイッチを押します。

非常起動

火災

● 火災灯が点灯

2 放送階選択スイッチ (一斉スイッチ)を押します。

放送階選択スイッチ (一斉スイッチ)

● 火災灯点滅 (押す)

● 発報放送表示灯が点灯

● 火災放送移行の第1タイマスタート (タイマ動作中は火災灯点滅)

3 火災を確認します。

注意

- 次の場合自動的に火災放送されます。
- 感知器、発信機、非常電話の起動。
- 第1タイマのタイムアップ。
- 放送復旧スイッチを押すことにより発報放送の停止 (第1タイマは継続) ができます。

発報放送が2回以上くり返し放送されます。

発報放送

「ピンポン ピンポン ピンポン」
「ただいま、〇階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

その後、無音となります。

● 発報放送表示灯が点滅。

4 火災スイッチを押します。

火災

● 火災灯、火災放送表示灯が点灯。

火災放送がくり返し放送されます。

火災放送

「ピンポン ピンポン ピンポン」
「火事です。火事です。〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」……2回くり返し「ビュー ビュー ビュー」

非火災放送が2回放送されます。

非火災放送

「ピンポン ピンポン ピンポン」
「さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

その後は無音となります。

● 非火災放送表示灯が点滅。

マイク放送終了後「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。

● 火災放送表示灯が点滅。

第2タイマの設定「OFF」の場合

第2タイマの設定「0分」の場合

第2タイマのタイムアップ

7 すべての階に火災放送がくり返し放送されます。

火災放送

「ピンポン ピンポン ピンポン」
「火事です。火事です。〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」……2回くり返し「ビュー ビュー ビュー」

- すべての階別作動表示灯が点灯。

注意

- 放送復旧することはできません。

8 マイク放送または火災放送します。

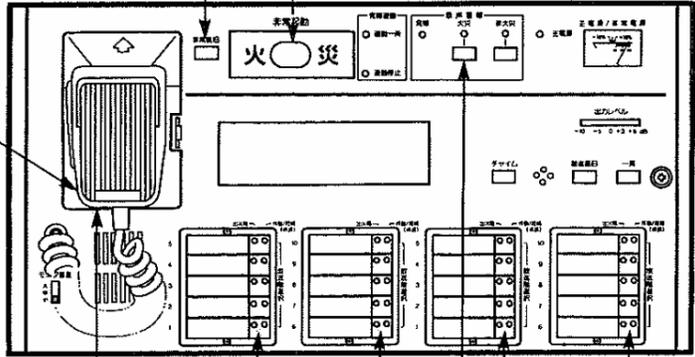
● すべての階に放送されます。

● マイク放送後は、「ビュービュービュー」のくり返し放送となります。

9 自火報設備を復旧させます。

10 非常復旧スイッチを押します。

非常復旧



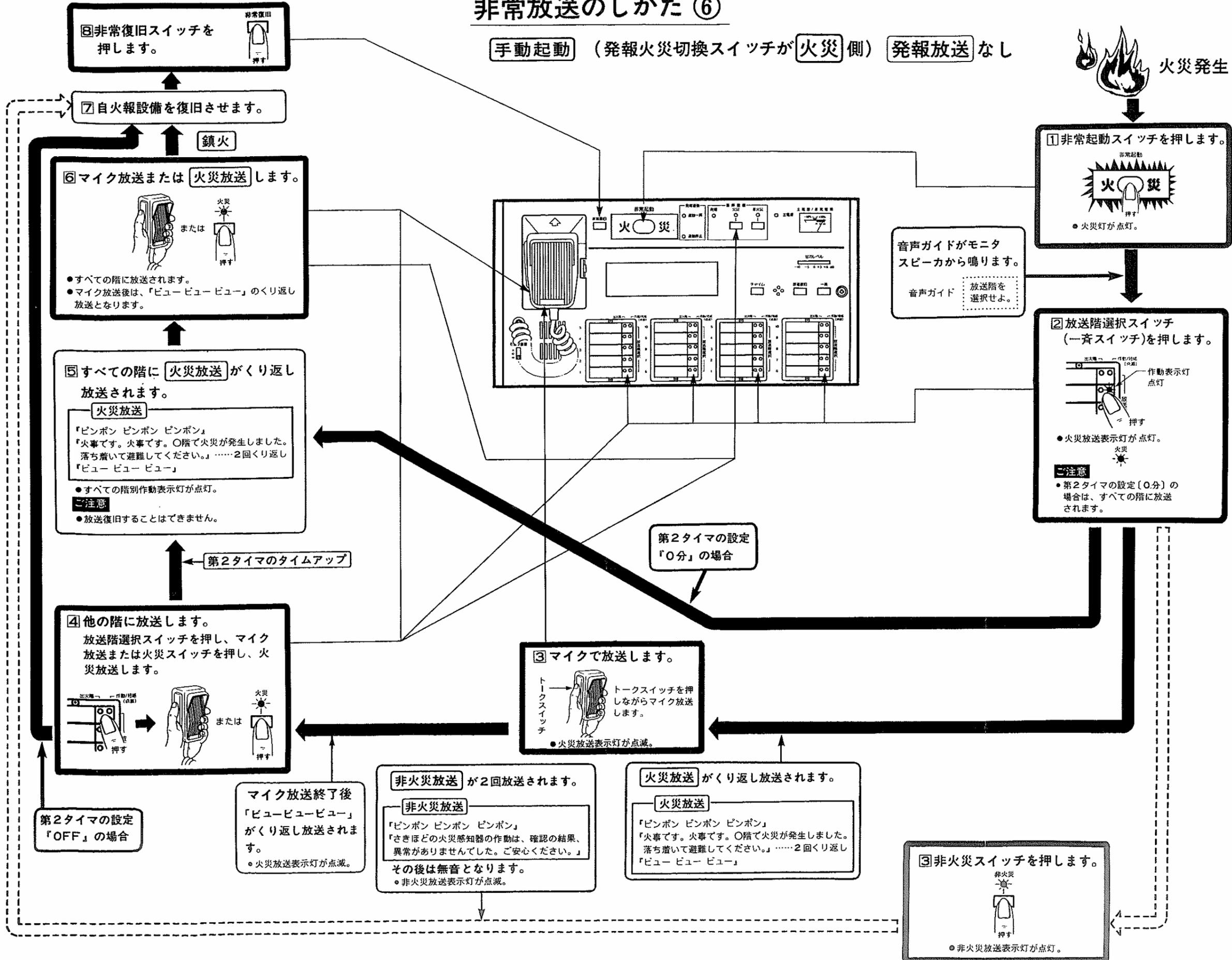
音声ガイドがモニタースピーカーから鳴ります。

音声ガイド

放送階を選択せよ。

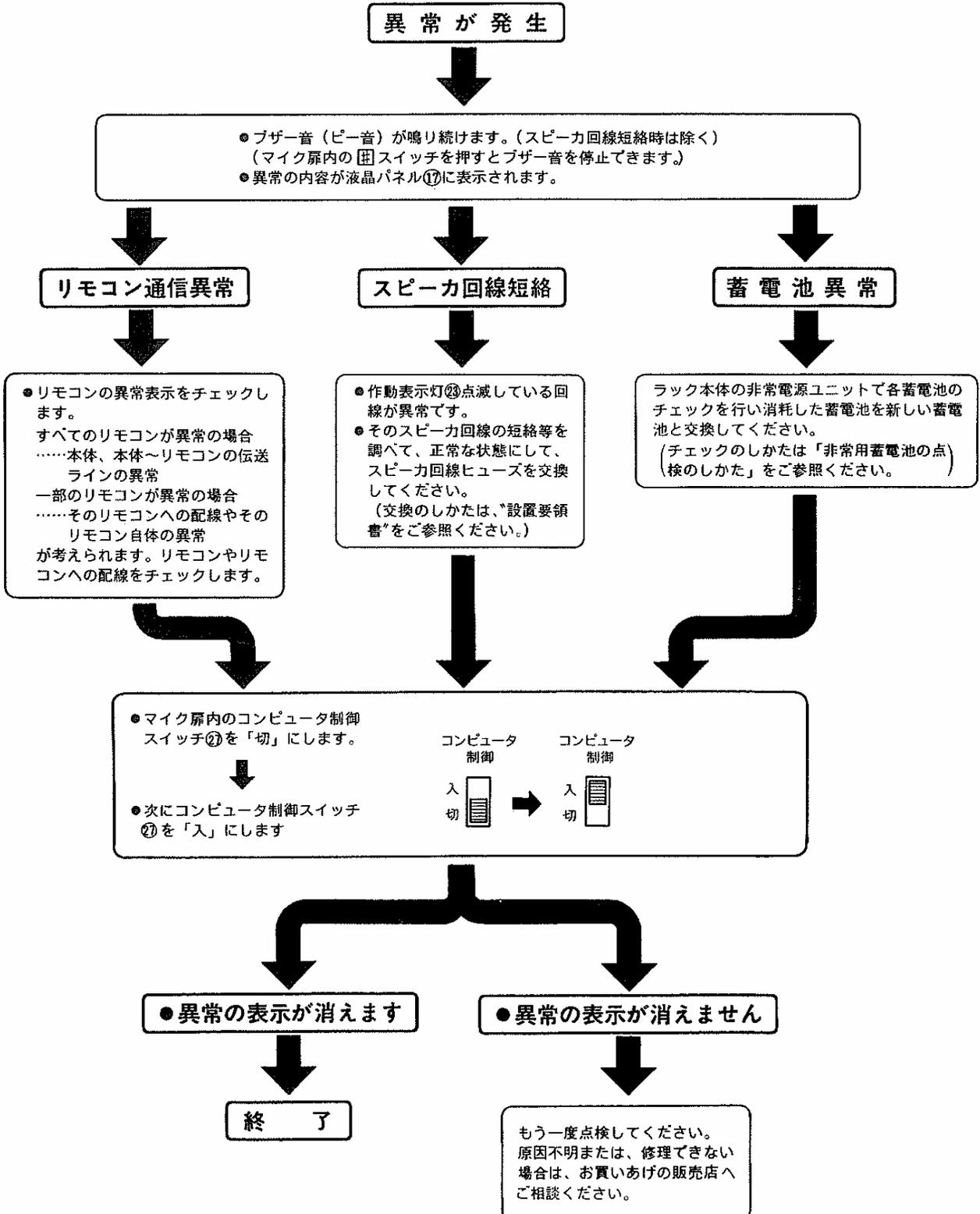
非常放送のしかた ⑥

手動起動 (発報火災切換スイッチが「火災」側) 発報放送なし



自動点検について

- ラック本体では、常に非常業務リモコンとの通信、スピーカ回線の短絡の点検が自動的に行われます。
- なお、24時間ごとに蓄電池の電圧を点検しています
- リモコンとの通信、スピーカ回線、蓄電池に何らかの異常が発生しますと液晶パネル⑰に、異常表示されます。下記の順でチェックしてください。
- 液晶パネル⑰にて、短絡したスピーカ回線を確認することができます。
(確認のしかたは、「書き込みのしかた」をご参照ください。)



蓄電池手動点検について

- 蓄電池の異常の有無をマイク扉内のスイッチ操作で点検できます。
 - 操作は、液晶パネル⑱の操作ガイドに従って、次の手順で行なってください。
- ①蓄電池点検スイッチ㉕を押します。
液晶パネル⑱に“蓄電池点検”と表示されます。
 - ②点検したい蓄電池の番号を入力します。
1番目の場合は①を押します。
 - ③確定スイッチ㉖を押します。
“只今点検動作中”と表示されます。
主電源／非常電源電圧計⑲に蓄電池の電圧が約5秒間表示されます。
 - ④②、③の操作をくり返して行ないます。
 - ⑤点検が終了したら、蓄電池点検スイッチ㉕を押します。
通常動作モードにもどります。
 - ⑥蓄電池の電圧が24V以下の場合は、非常電源パネルで点検チェックを行なってください。

修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、お買いあげの販売店にご相談ください。なお、ご相談されるときは機器の型名、ラック本体の型名およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。

仕 様

●非常業務リモコン

形 名	ERM-5202B
使 用 電 源	DC24V(本体より受電)
消 費 電 流	DC570mA
ひ ず み 率	0.5%以下
S / N	55dB以上(非常業務兼用マイク) 65dB以上(外部入力)
周 波 数 特 性	300~6000Hz ± 3 dB以内(非常業務兼用マイク) 50~15000Hz ± 3 dB以内(外部入力)
入 力 回 路	非常・業務兼用マイク -46dB 600Ω 不平衡 1回路 外部入力 -20dB 10kΩ 不平衡 1回路
出 力 回 路	ライン出力 0dB 600Ω 平衡 1回路
音声警報メッセージ	感知器発報放送……ただいま〇〇階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので次の放送にご注意ください。(女性) 火災放送………火事です。火事です。〇〇階で火災が発生しました。落ちついて避難してください。(男性) 非火災放送………さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。(女性)
出 力 制 御	放送階選択………20局十一斉(非常・業務) ブロック選択………放送階選択スイッチを5局単位でブロック選択スイッチに設定可能(設定数分の放送階選択スイッチが減少する) 設定:業務専用、非常専用、非常業務兼用
L C Dディスプレイ	文字数………15文字×4行 フォント………16ドット×16ドット 表示文字………JIS第一水準文字、英数字、ひらがな、カタカナ、外字 表示内容………操作ガイド、異常表示、動作中表示、点検結果表示
音声警報手動制御	火災放送スイッチ・非火災放送スイッチ付
L E D 表 示	階別作動表示………20回線(緑) 出火階表示………20回線(赤) 回線短絡表示………階別作動表示点滅方式 その他………発報放送表示(橙)、火災放送表示(赤)、非火災放送表示(緑)、連動停止表示(赤)、連動一斉表示(赤)
モ ニ タ ス ピ ー カ	1W/8Ω 音量調節器(3段切換式)付
出 力 レ ベ ル 計	5ポイントLED
主電源、非常電源電圧計	常時受電電圧を表示、点検時本体内蔵のバッテリー電圧を表示
塗 装 色	パネル………ブラウングレー(マンセル10YR4/1近似色) 本体・側板………メインカラー(マンセル3.7YR7.7/0.1近似色)
質 量	約6.0kg
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ●卓上使用時………増設スイッチユニット(ERB-2202、2102)を連結して使用するとき、および操作部(ERM-5202B)を手前に傾斜をもたせて設置するときは卓上形金具(形名LAD-9002…別売)が必要です。 ●壁取付使用時………壁取付金具(形名LAD-9003…別売)が必要です。 ●ラックマウント時…ラックマウント金具(形名LAD-5200…別売)が必要です。 ●音声警報部は本体(ラック型非常放送アンプ)に収納
付 属 品	取扱説明書、設置要領書 ……………各1 取扱説明書 ……………1

●増設ユニット

形 名	ERB-2102	ERB-2202
使用電源	DC24V (本体より受電)	
消費電流	DC100mA	DC200mA
出力制御	放送階選択……10局(非常・業務)	放送階選択……20局(非常・業務)
LED表示	階別作動表示……10回線(緑) 出火階表示……10回線(赤) 回線短絡表示……階別作動表示点滅方式	階別作動表示……20回線(緑) 出火階表示……20回線(赤) 回線短絡表示……階別作動表示点滅方式
塗 装 色	パネル……ブラウングレー (マンセル10YR4/1 近似色) 本体、側板……メインカラー (マンセル3.7YR7.7/0.1 近似色)	
質 量	約2.8kg	
付 属 品	フラットケーブル両端多極コネクタ付コード (信号用) …… 1 両端4Pコネクタ付コード (電源用) …… 1	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ●卓 上 使 用 時……非常・業務リモコン(ERM-5202B) に本機を連結して使用するとき、 卓上形金具(LAD-9002…別売)が必要です。 ●壁 取 付 使 用 時……非常・業務リモコン(ERM-5202B) に本機を連結して使用するとき、 壁取付金具(LAD-9003…別売)が必要です。 ●ラック組み込み時……ラックマウントして使用するとき、ラックマウント金具 (LAD-2101…別売)が必要です。 	

製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペック株式会社

RKTERM52B-H0-1

対象機種	ERM-5202Bシリーズ	非常業務リモコン(20局)	ERM-5202B
		増設ユニット (10局)	ERB-2102
		増設ユニット (20局)	ERB-2202

このたびはユニボックス非常業務リモコンをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
 お求めの非常業務リモコンを正しく使っていただくために、この設置要領書をよくお読みください。
 お読みになったあとは必ず保存してください。

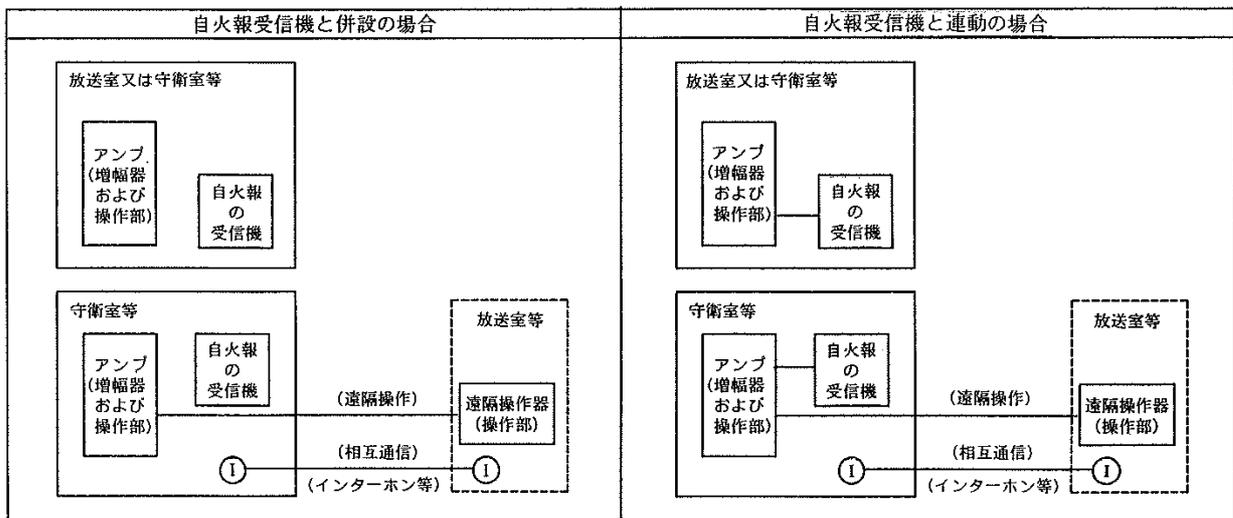
設置上のご注意

非常リモコンの設置について

本機は消防法に適合した機種です。本機の設置場所は消防法で次のように規定されています。

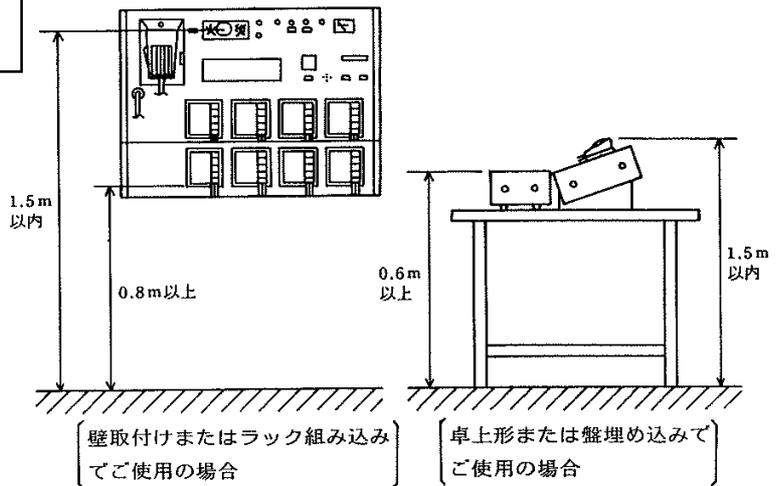
- ① 操作部又は遠隔操作器のうちの一のものは守衛室等常時人がいる場所（中央管理室が設けられている場合には当該中央管理室）に設けること。
 - 消防法施行規則第25条の2の3のル一
- ② 増幅器、操作部及び遠隔操作器は点検に便利かつ、防火上有効な措置を講じた位置に設けること。
 - 消防法施行規則第25条の2の3のト一
- ③ 一の防火対象物に二以上の操作部又は遠隔操作器が設けられているときは、これらの操作部又は遠隔操作器のある場所相互で同時に通話することができる設備を設けており、かつ、いずれの操作部又は遠隔操作器からも当該防火対象物の全区域に火災を報知することができるものであること。
 - 消防法施行規則第25条2の3のラ一

- ここで防火上有効な措置を講じた位置とは、当該設備を設置する防火対象物のうち、壁、床および天井が不燃材料で造られており、その開口部は甲種防火戸を設けた室をいいます。
- 本機（増幅器、操作部）の設置方法には下記の4種類が考えられます。なお、下記の実線で表した部屋は常時人がいて、①②③項を満足していなければなりません。
- 報知区域については操作部又は遠隔操作器が1以上守衛室等常時人がいる場所に設けられていれば、遠隔操作器等から報知できる区域を防火対象物全域としないことができる場合があります。（消防予第22号の5）



工事店様へ 工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。
 お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

④ 操作部および遠隔操作器の操作スイッチは、床面からの高さが0.8m（いすに座って操作するものにあつては0.6m）以上1.5m以下の箇所に設けること。



上図の範囲で取り付けてください。

配線について

本機の配線工事は電気工作物にかかわる法令の規定によるほか、消防法の規定によります。

①ラック形本体～本機までの配線

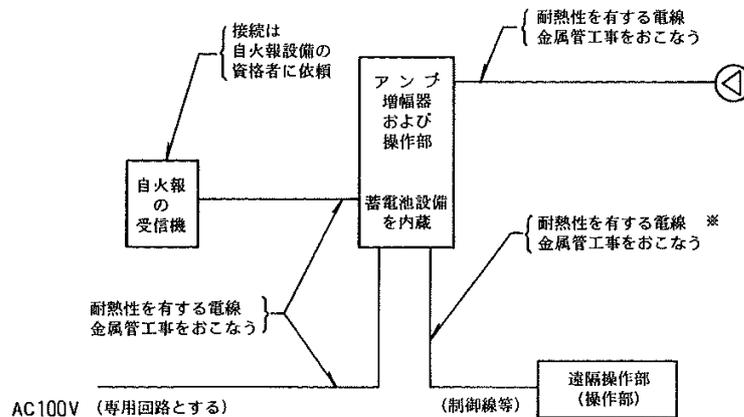
イ、600ボルト耐熱ビニル絶縁電線または、これと同等以上の耐熱性を有する電線を使用すること。

ロ、金属管工事、可とう電線管工事、金属ダクト工事、またはケーブル工事（不燃性のダクトに布設するものに限る）により設けること。ただし消防庁長官が定める基準に適合する電線を使用する場合はこの限りでない。

- －消防法施工規則第25条の2の四の二－
- －消防法施行規則第12条の1の5－

●消防庁長官が定める基準に適合する電線とは耐熱電線のことであり消防庁告示第10号に規定する基準に合格した電線です。この耐熱電線を使用すれば金属管工事等は不用です。

●本機およびラック形本体の配線をまとめると次のようになります。



※ノイズの混入を避けるためツイストペアケーブルをご使用ください。

設置のしかた

•本機は卓上形、壁取付形、ラック（または盤）埋め込み形のいずれの取り付けでもご使用できます。

それぞれの取り付け用として、次の取付金具（別売）が必要です。

卓上形使用の場合-----卓上形金具（形名：LAD9002）

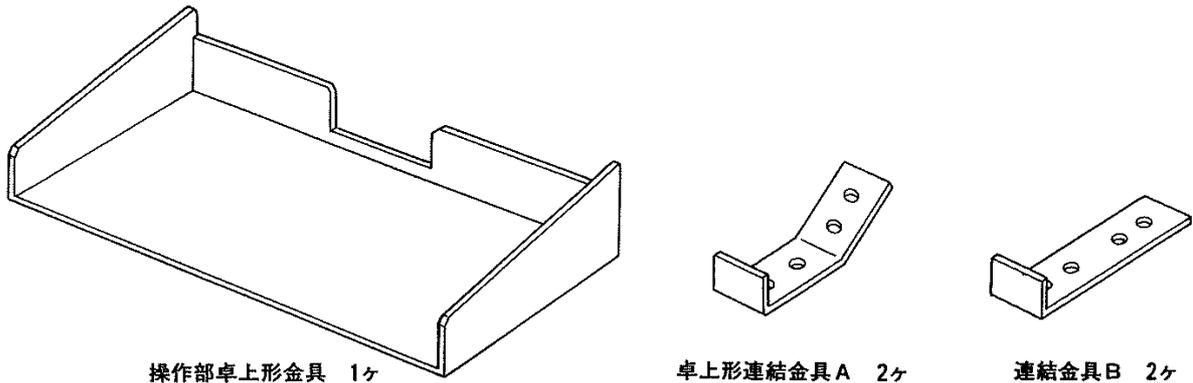
壁取付形使用の場合-----壁取付金具（形名：LAD9003）

ラック（または盤）埋め込み使用の場合-----ラックマウント金具
 └ 非常業務リモコン用（形名：LAD5200）
 └ 増設ユニット用（形名：LAD2101）

卓上形使用の場合の金具の取りつけかた、増設ユニットの連結のしかた

•卓上形でご使用の場合は卓上形金具（形名：LAD9002）（別売）が必要です。

卓上形金具は次の取付金具で構成されています。

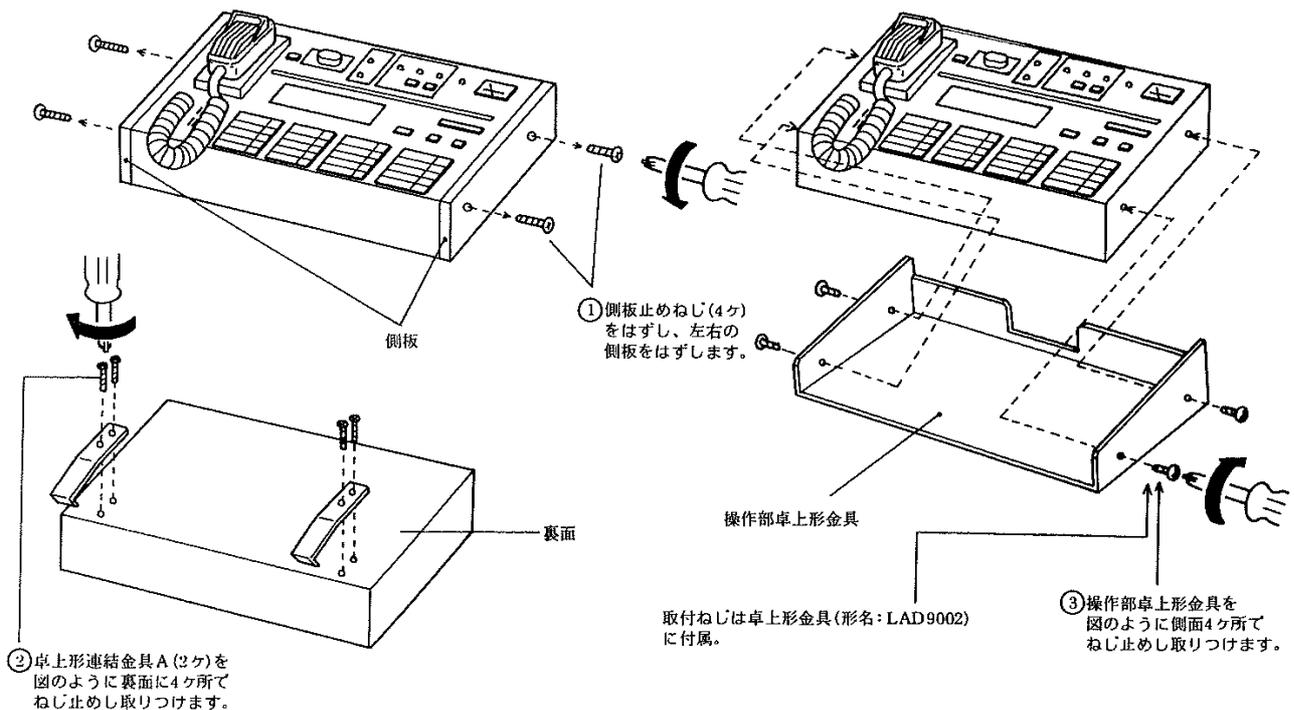


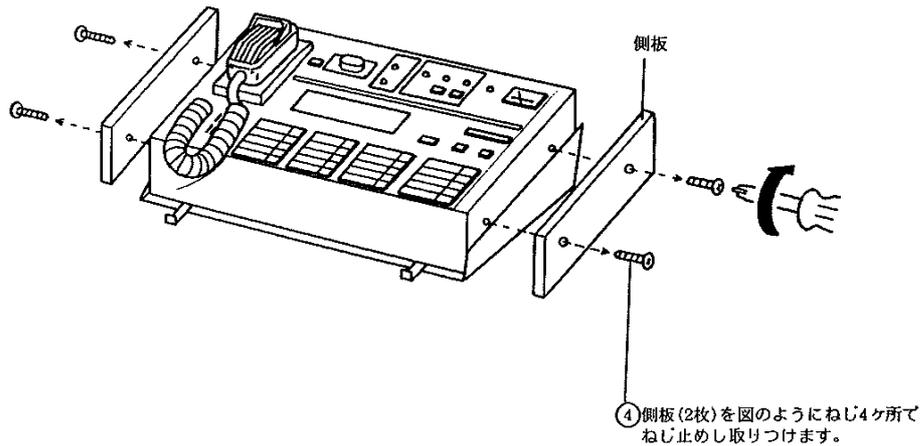
•これらの金具を使って次の手順で卓上形金具の取り付け、増設ユニットの連結を行なってください。

手順1

- ①非常業務リモコンの側板をはずし ②卓上形連結金具Aを取りつけ ③操作部卓上金具を取りつけ
- ④はずした側板を非常業務リモコンに再度取り付けます。

----- 非常業務リモコン(20局)のみで増設ユニットを使用しない場合は②(卓上形連結金具Aの取り付け)は必要ありません。





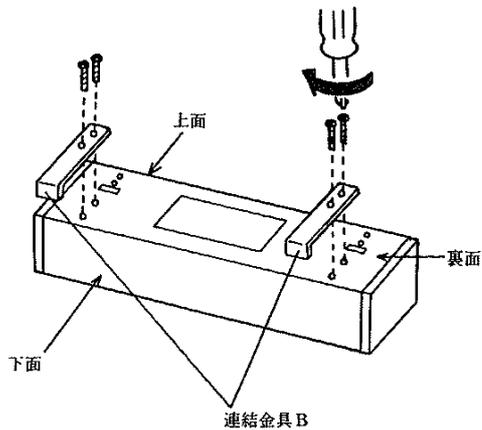
手順2

増設ユニットを連結します。

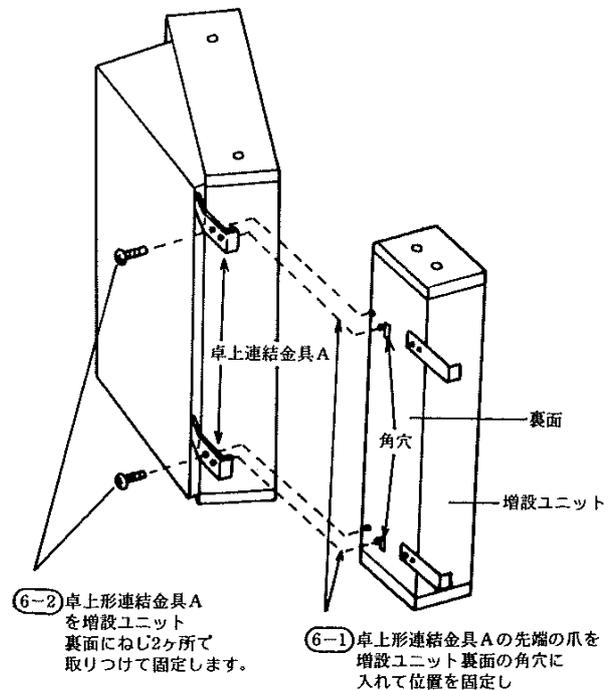
非常業務リモコン(20局)と増設ユニット(10局または20局)との連結

- ⑤ 増設ユニットに連結金具Bを取りつけておき ⑥ その増設ユニットを非常業務リモコンに、**手順1**で非常業務リモコンに取りつけておいた卓上形連結金具Aを使って図のように連結します。

-----増設ユニットが1台の場合(40局以内の場合)は⑤(連結金具Bの取り付け)は必要ありません。

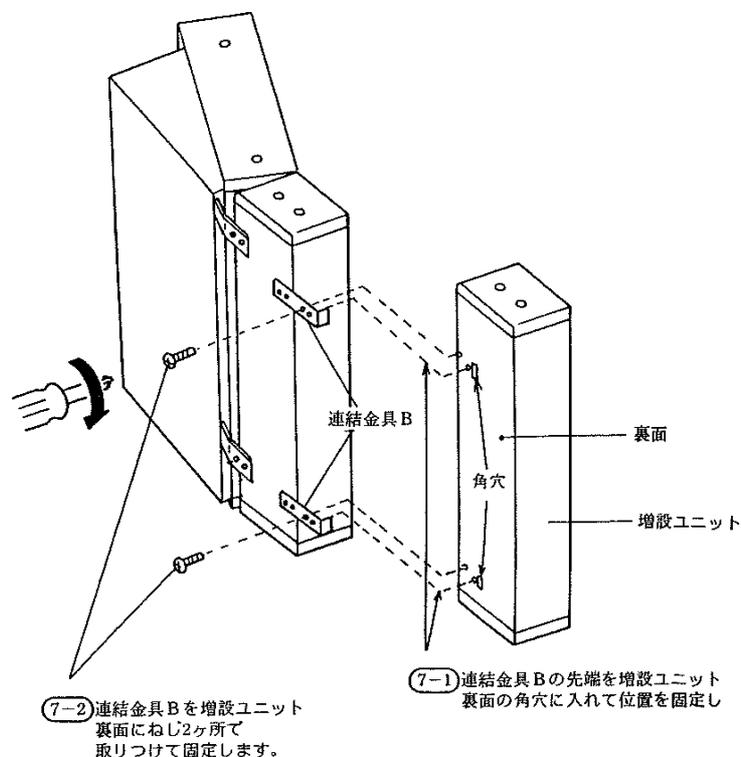


- ⑤ 連結金具B(2ヶ)を図のように増設ユニット裏面にねじ4ヶ所でねじ止めし取り付けます。



増設ユニット間の連結

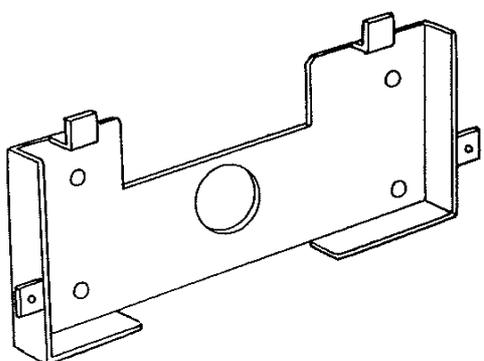
⑦ 増設ユニットを **手順2** ⑤ で取りつけておいた連結金具Bを使って図のように連結します。



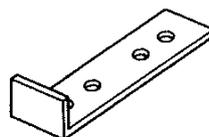
•卓上形金具には、増設ユニット2台連結分(60局まで)の金具が付属されています。増設ユニットを3台以上で(61局以上で)ご使用の場合は連結金具Bが不足します。この場合は当社(営)担当へご依頼ください。

壁取付形使用の場合の壁への取り付けかた、増設ユニットの連結のしかた

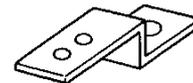
•壁に取りつけてご使用の場合は壁取付金具(形名:LAD9003)(別売)が必要です。
壁取付金具は次の取付金具で構成されています。



操作部壁取付金具 1ヶ



連結金具B 4ヶ



壁固定金具 2ヶ

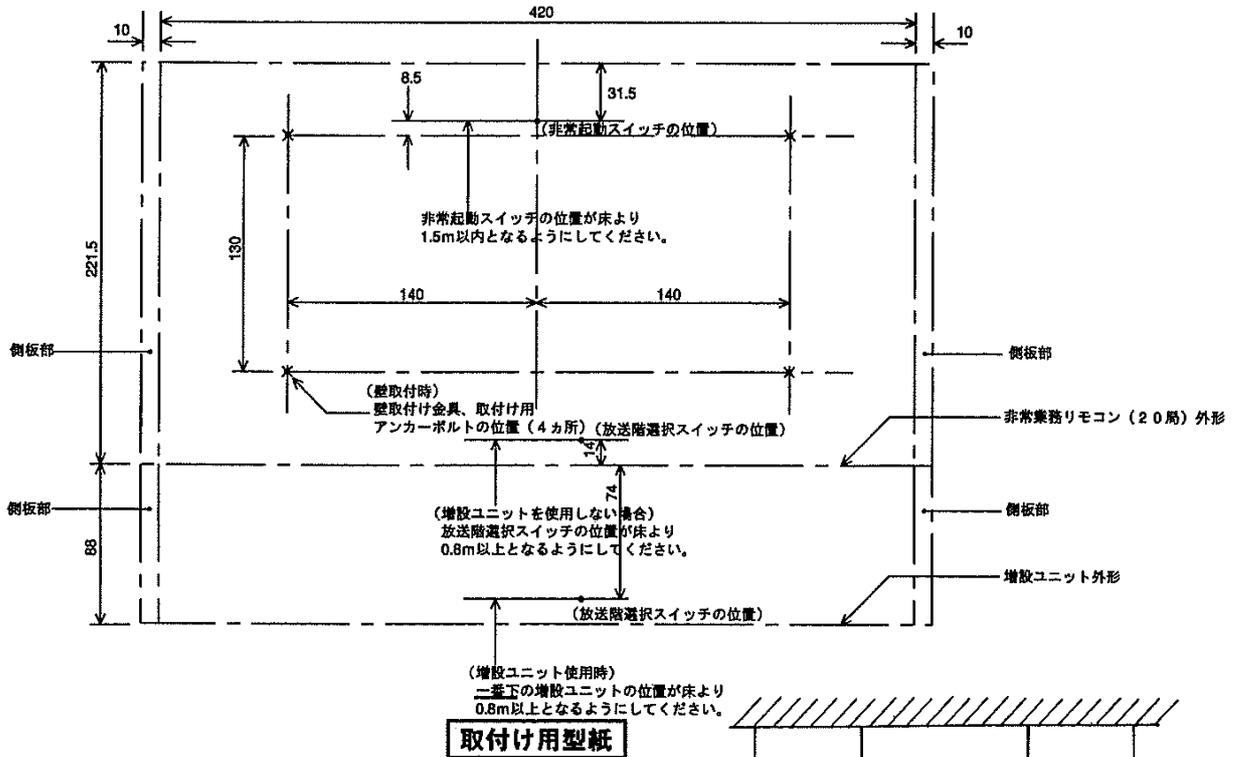
•これらの金具を使って次の手順で壁への取り付け、増設ユニットの連結、固定をしてください。

手順1

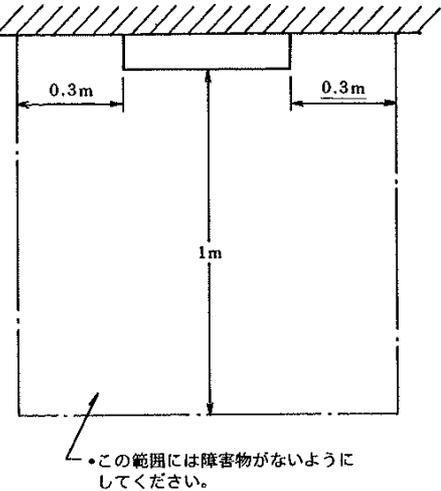
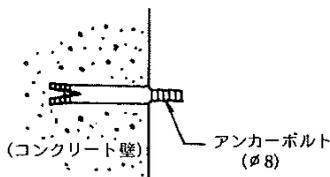
① 付属の取付用型紙を使って

- (1) 非常起動スイッチの位置が床面から1.5m以内
- (2) 最下部の階別選択スイッチの位置が床面から0.8m以上

の位置にくるように、非常業務リモコン(20局)用の取付用型紙を壁に貼りつけてください。
 なお、操作の妨げにならないよう左右0.3m、前面1m以内には障害物等がないような場所を選んでください。



- ## ② 取付用型紙の「アンカーボルトの位置」4ヶ所にアンカーボルトを打ち込んでください。 (板壁に取り付ける場合はねじを使用してください。)

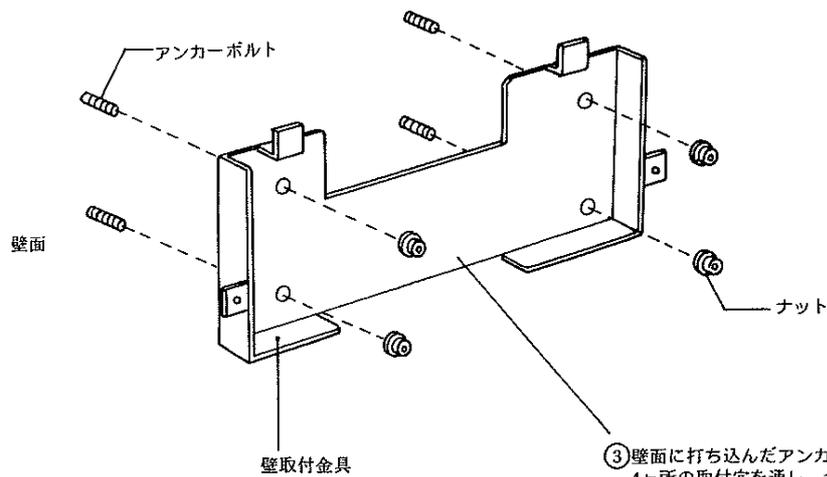


手順2

- ③ 壁取付金具を壁に取りつけます。④ 非常業務リモコン(20局)には連結金具Bを取りつけておきます。
 - ⑤ 非常業務リモコンのパネルをあげ⑥ 壁取付金具に本体を引っかけ⑦ 取付ねじで固定します。
- 非常業務リモコン(20局)のみで増設ユニットを使用しない場合は④(連結金具Bの取り付け)は必要ありません。

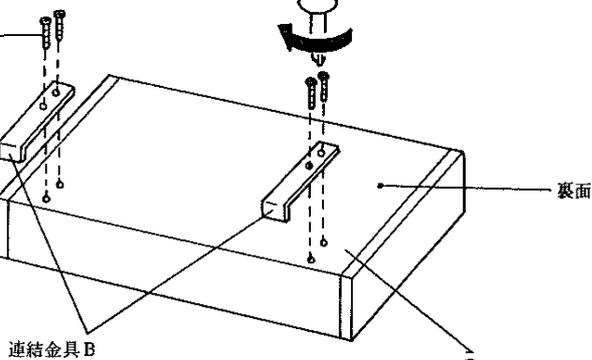
ご注意

増設ユニットをご使用の場合は増設ユニットとの接続コードを接続しておいてから非常業務リモコン(20局)を取りつけてください。(接続のしかたは12ページをご参照ください。)

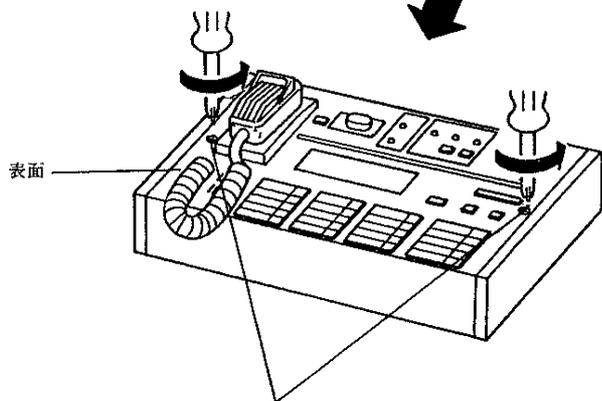


③ 壁面に打ち込んだアンカーボルトに壁取付金具の4ヶ所の取付穴を通し、ナットで固定します。

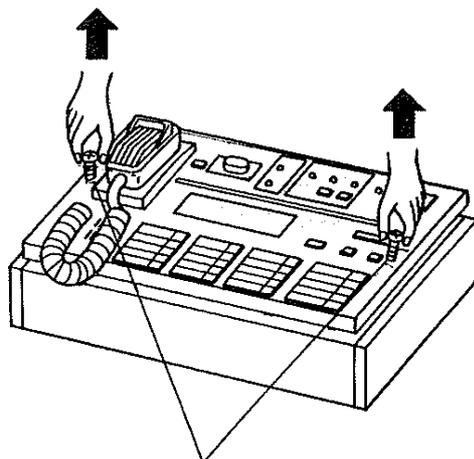
取付ねじは壁取付金具(形名:LAD9003)に付属。



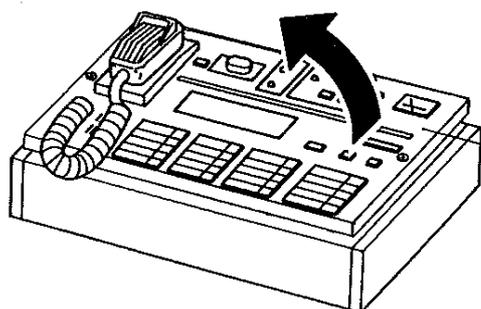
④ 非常業務リモコン(20局)に連結金具B(2ヶ)を図のように裏面に4ヶ所でねじ止めし取りつめます。



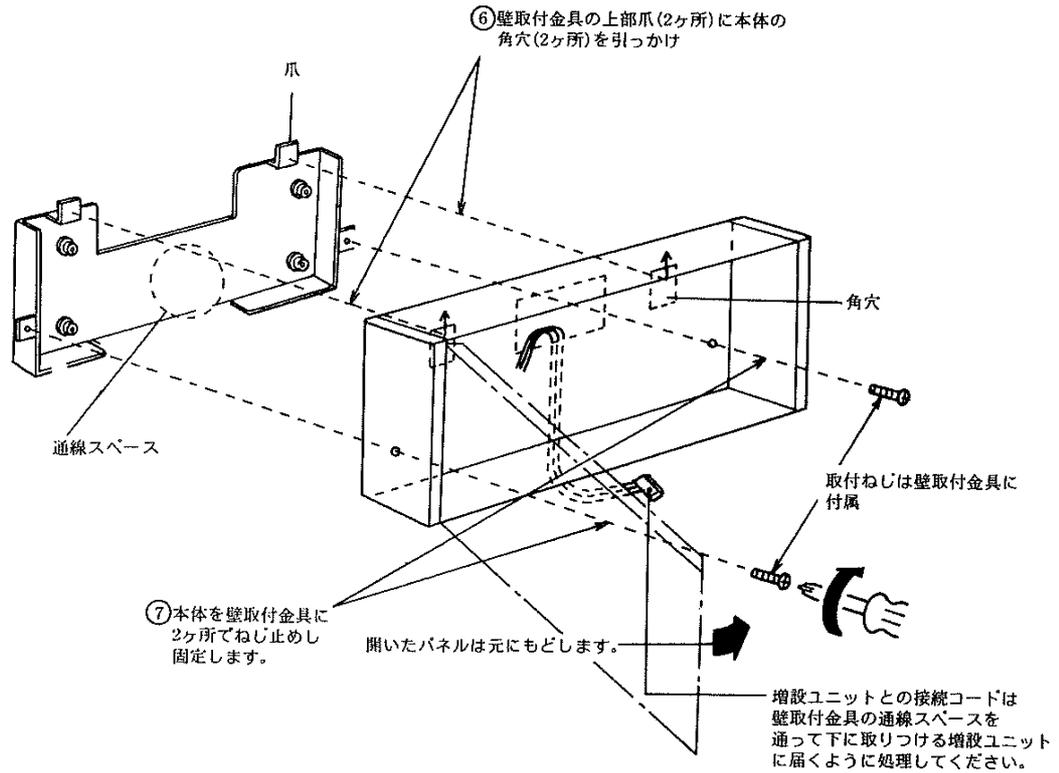
5-1 パネルを止めているねじ(2ヶ所)をゆるめ



5-2 ゆるめたねじを両手で持ってパネル全体を手前に止まるまで引き出し



5-3 パネルを左開きであけます。



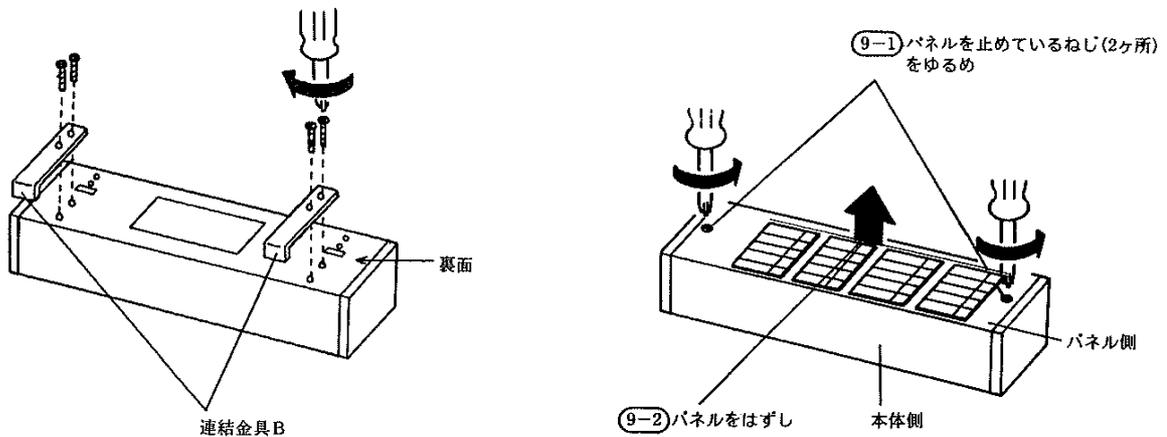
手順3

増設ユニットを連結します。

非常業務リモコン(20局)と増設ユニット(10局または20局)との連結

- ⑧ 増設ユニットに連結金具Bを取りつけておきます。⑨ その増設ユニットのパネルをとりはずし
- ⑩ 増設ユニットの本体側を **手順2** で非常業務リモコンに取りつけておいた連結金具Bに取りつけて連結した後 ⑪ はずした増設ユニットのパネルをもとに戻します。

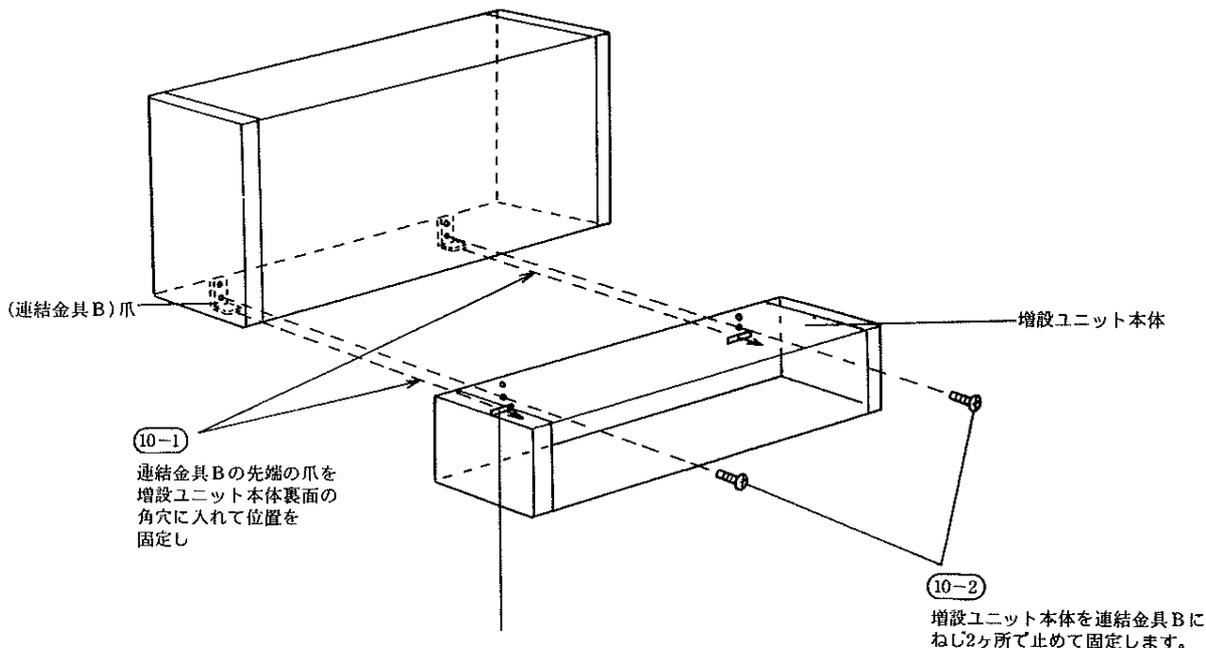
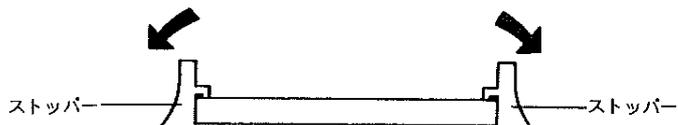
-----増設ユニットが1台の場合(40局以内の場合)は⑧(連結金具Bの取り付け)は必要ありません。



- ⑧ 連結金具B(2ヶ)を図のように増設ユニット裏面にねじ4ヶ所でねじ止めし取り付けます。

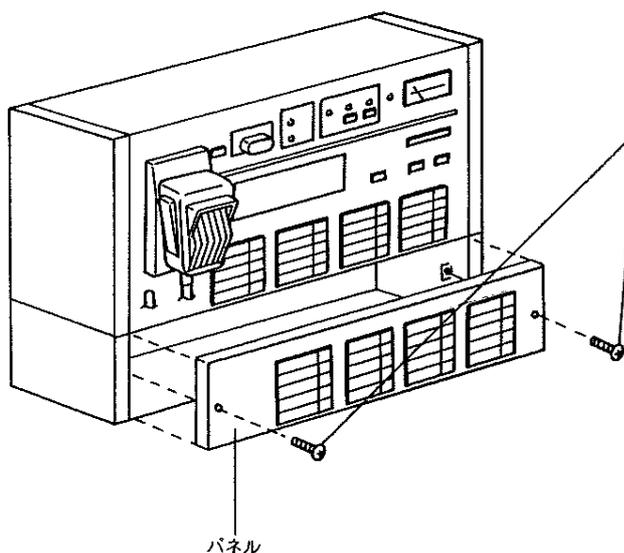
9-3

パネル側と本体側を接続しているコネクタ(パネル側についています)をはずします。フラットケーブルのついているコネクタは下図のようにストッパーのロックを解除してからはずしてください。



ご注意

- 連結金具Bにねじ止めする前に非常業務リモコン(20局)からの接続コードを増設ユニット背面のコネクタに接続します。さらに増設ユニットをご使用の場合は、その増設ユニットとの接続コードを接続しておきます。
- これらを行なったあと上記の取り付けをしてください。



11 はずしたコネクタをもとに戻した後増設ユニットのパネルを元のようにねじで止めて固定します。

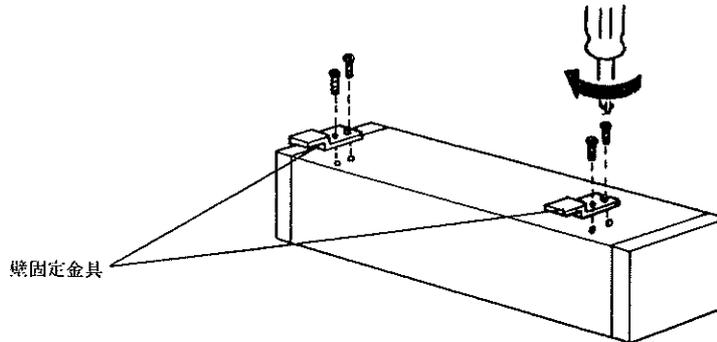
ご注意

- コネクタには方向がありますのでさし込むときに注意してください。
- フラットケーブルのついているコネクタはさし込んだあと下図のようにストッパーでロックしてください。



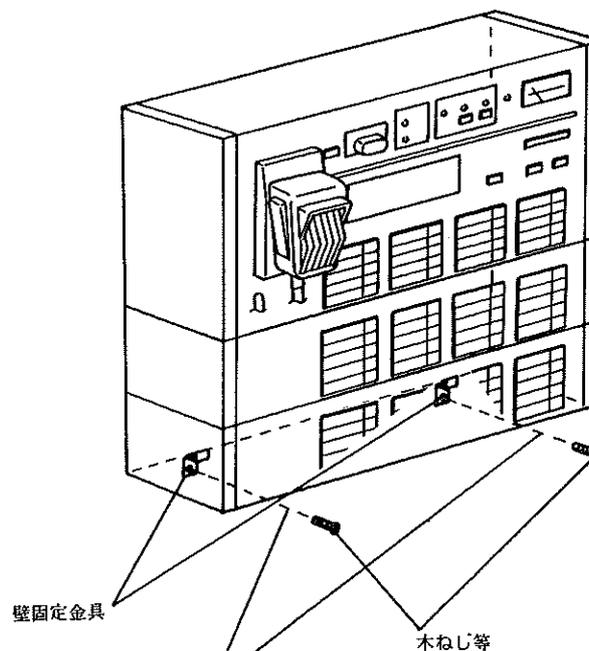
増設ユニット間の連結

- ⑫ 増設する増設ユニットに壁固定金具を取りつけておきます。⑬ その増設ユニットのパネルを取りはずし
- ⑭ 増設ユニットの本体側を **手順3** ⑧ で取りつけておいた連結金具Bに取りつけて連結した後
- ⑮ はずした増設ユニットのパネルをもとに戻します。
- ⑯ 壁固定金具で壁面に固定して完了です。



- ⑫ 壁固定金具(2ヶ)を図のように増設ユニット裏面にねじ4ヶ所でねじ止めし取り付けます。

• ⑬ ~ ⑮ の手順は ⑨ ~ ⑪ と同様ですので ⑨ ~ ⑪ の取付図(8~9ページ)をご参照ください。



- ⑯ 木ねじ等で壁固定金具を壁面に止めて固定します。

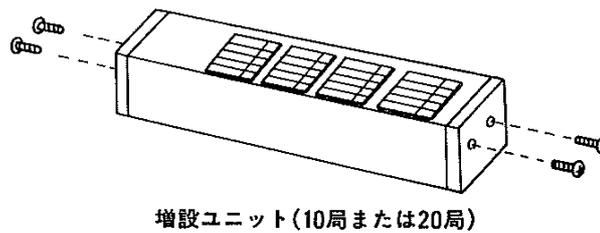
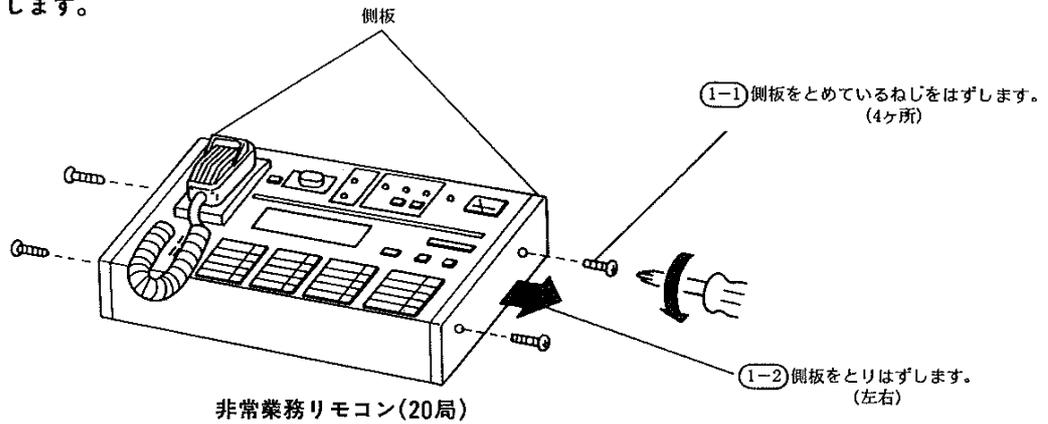
• 壁固定金具には増設ユニット2台連結分(60局まで)の金具が付属されています。
 増設ユニットを3台以上ご使用の場合は **手順3** ⑧ ~ ⑪ の手順で増設ユニットを連結し、最下部の増設ユニットを **手順3** ⑫ ~ ⑯ の手順で連結し、壁に固定します。
 この場合連結金具Bが不足しますので、当社(営)担当へご依頼ください。

ラック(または盤)埋め込み使用の場合の金具の取り付けかた

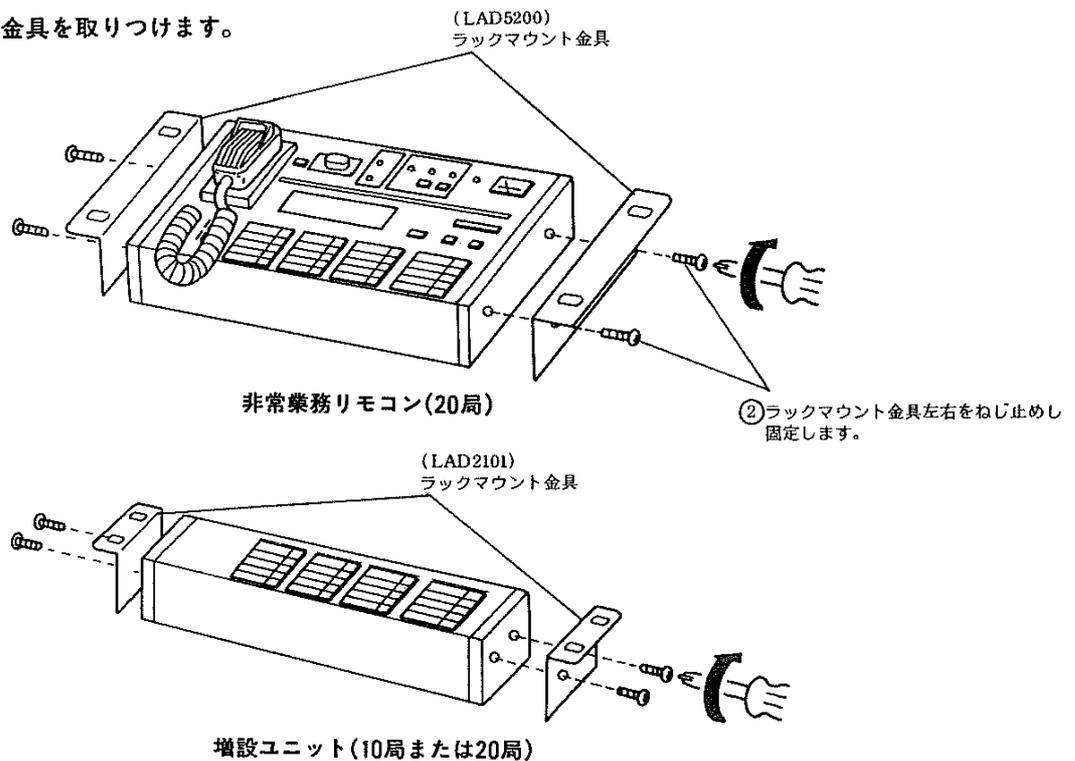
- ラックまたは盤等に埋め込んでご使用の場合はラックマウント金具(別売)が必要です。
非常業務リモコン(20局)用ラックマウント金具 LAD5200
増設ユニット(10局または20局)用ラックマウント金具 LAD2101
- これらのラックマウント金具を使ってラックマウントまたは盤に埋め込んでください。

手順1

- ①側板をとりはずします。



- ②ラックマウント金具を取りつけます。



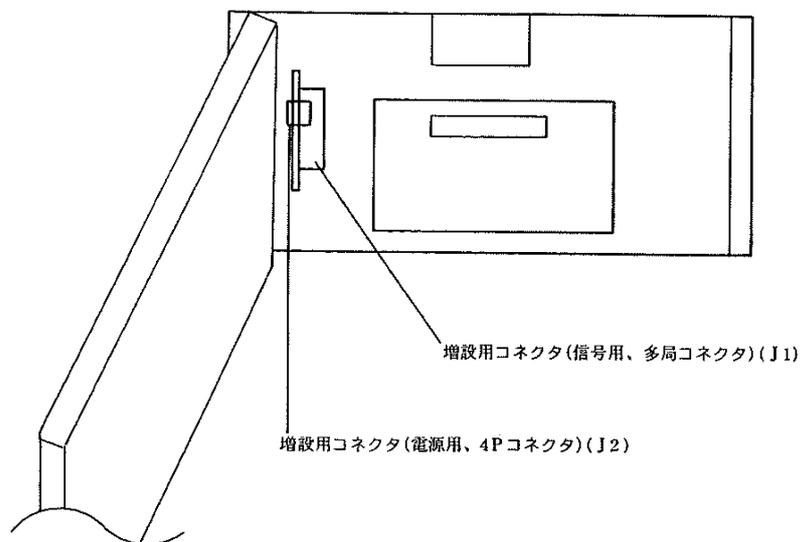
接続のしかた

非常業務リモコン(20局)と増設ユニット(10局または20局)との接続のしかた

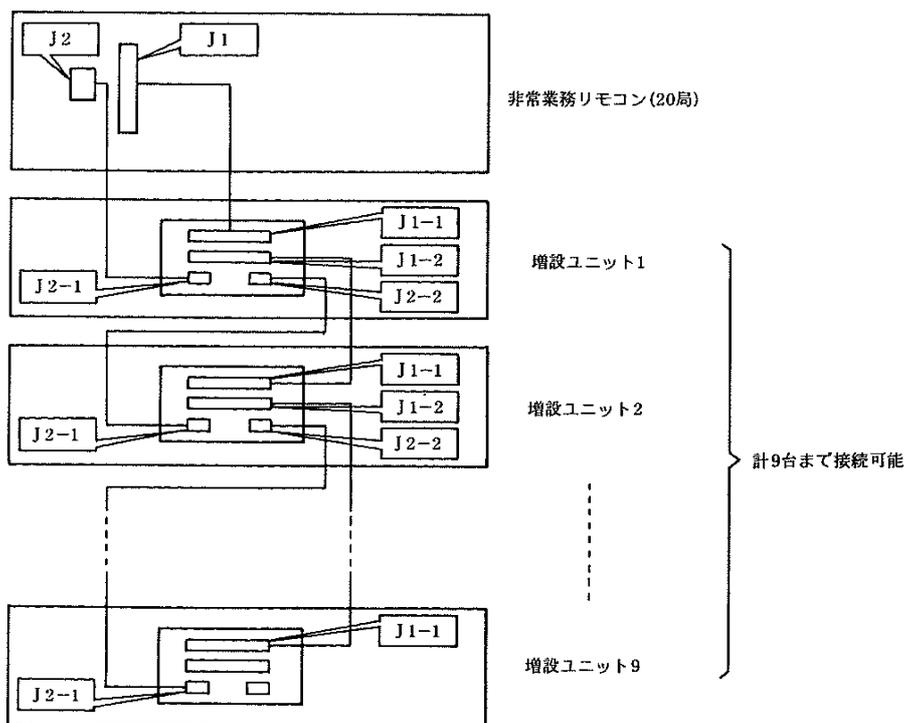
- 非常業務リモコン(20局)は、パネルをあけた内部に増設ユニットとの接続コネクタがあります。

ご注意

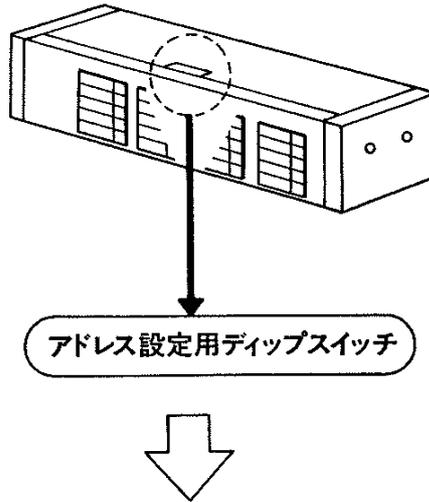
- パネルのあけかたは7ページをご参照ください。



- 増設ユニットは裏面に持続コネクタがあります。
- 非常業務リモコン(20局)に増設ユニット(10局または20局)は**最大9台**まで接続でき、**最大200回線**とすることができます。
- 増設ユニットの接続は下図のとおりです。



- 増設ユニットはアドレス設定が必要です。
アドレス設定用のディップスイッチは上面にあります。



●アドレス設定のしかた

増設ユニット	アドレス	ディップスイッチの設定
最初の増設ユニット	7	1 2 3 4 ON ON ON OFF
2番目の増設ユニット	8	1 2 3 4 ON OFF OFF OFF
3番目の増設ユニット	9	1 2 3 4 ON OFF OFF ON
4番目の増設ユニット	10	1 2 3 4 OFF ON OFF ON
5番目の増設ユニット	11	1 2 3 4 ON ON OFF ON
6番目の増設ユニット	12	1 2 3 4 OFF OFF ON ON
7番目の増設ユニット	13	1 2 3 4 ON OFF ON ON
8番目の増設ユニット	14	1 2 3 4 OFF ON ON ON
9番目の増設ユニット	15	1 2 3 4 ON ON ON ON

ラック形非常放送アンプ本体との接続のしかた

●本機が接続できる機器は、次のシリーズのラック形非常放送アンプのみです。
EL-2002Bシリーズ、EL-1502Bシリーズ

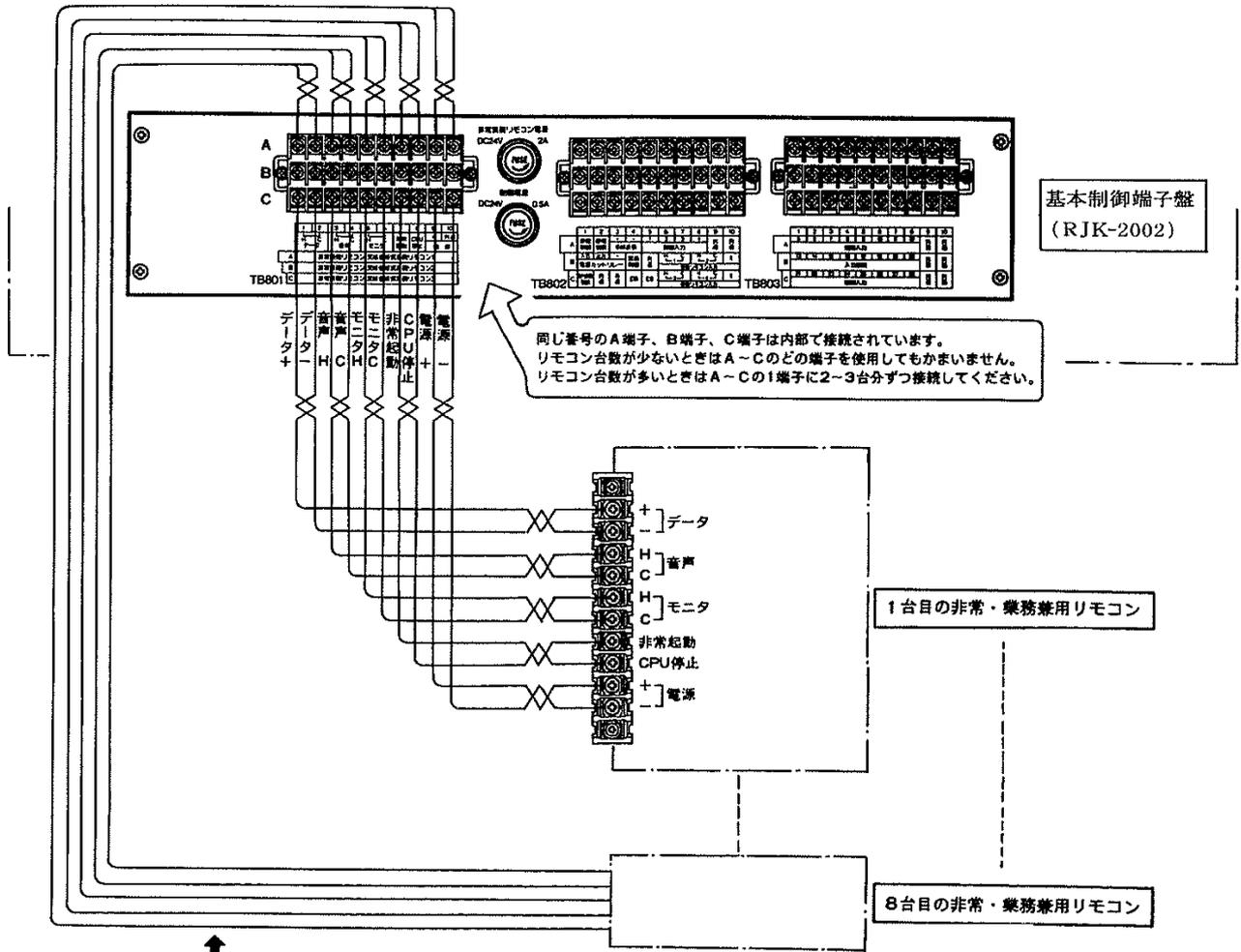
- 接続用の端子はパネルをあけた内部にあります。

ご注意

- パネルのあけかたは7ページをご参照ください。

•ラック形非常放送アンプ本体と下図のように接続してください。

ラック形非常放送アンプ



ご注意

- 配線は必ず耐熱対より形ケーブル(耐熱ツイストペアケーブル)をご使用ください。
(2本ずつが燃っている耐熱ケーブル)
- ツイストペアケーブルを使用しないと誤動作や、音声への伝送ノイズとびこみの原因となりますので必ずツイストペアケーブルを使用してください。
- 許容線路抵抗は下表のとおりです。線路抵抗値が許容線路抵抗以内になるように線径を選んでください。
- 線路抵抗値が許容値を超える場合は、6対以上のケーブルを用いて、電源ラインのみ2対以上を接続して許容値以下になるようにしてください。

〔許容線路抵抗値〕

局数	電源線(1対)	制御線(4対)
10	5Ω	50Ω
20	3Ω	50Ω
30	2.5Ω	50Ω
40	1.5Ω	50Ω
50以上	1Ω	50Ω

〔耐熱対より形ケーブルの線路抵抗値(1線あたり)〕

線径	抵抗値
∅0.65mm	約58Ω/km
∅0.9mm	約30Ω/km
∅1.2mm	約17Ω/km
∅1.6mm	約10Ω/km



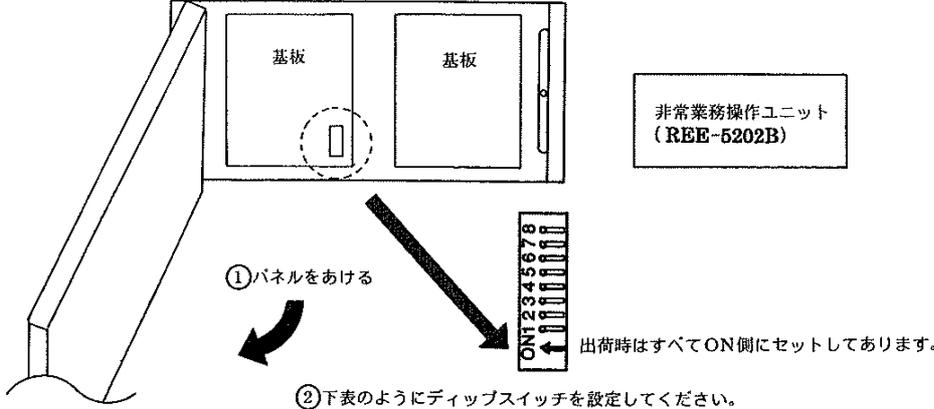
ご注意

•非常業務リモコンは最大8台まで接続できますが、3台以上ではラック形非常放送アンプ本体で必ず増設電源（RPB-0001）が、また、30回線で7台以上では制御電源ユニット（RPC-2002）の増設が必要です。回線数によってはこの条件が変わりますのでご注意ください。

初期設定

•使用する前にラック形非常放送アンプ本体側で初期設定が必要です。
次の手順で初期設定をしてください。

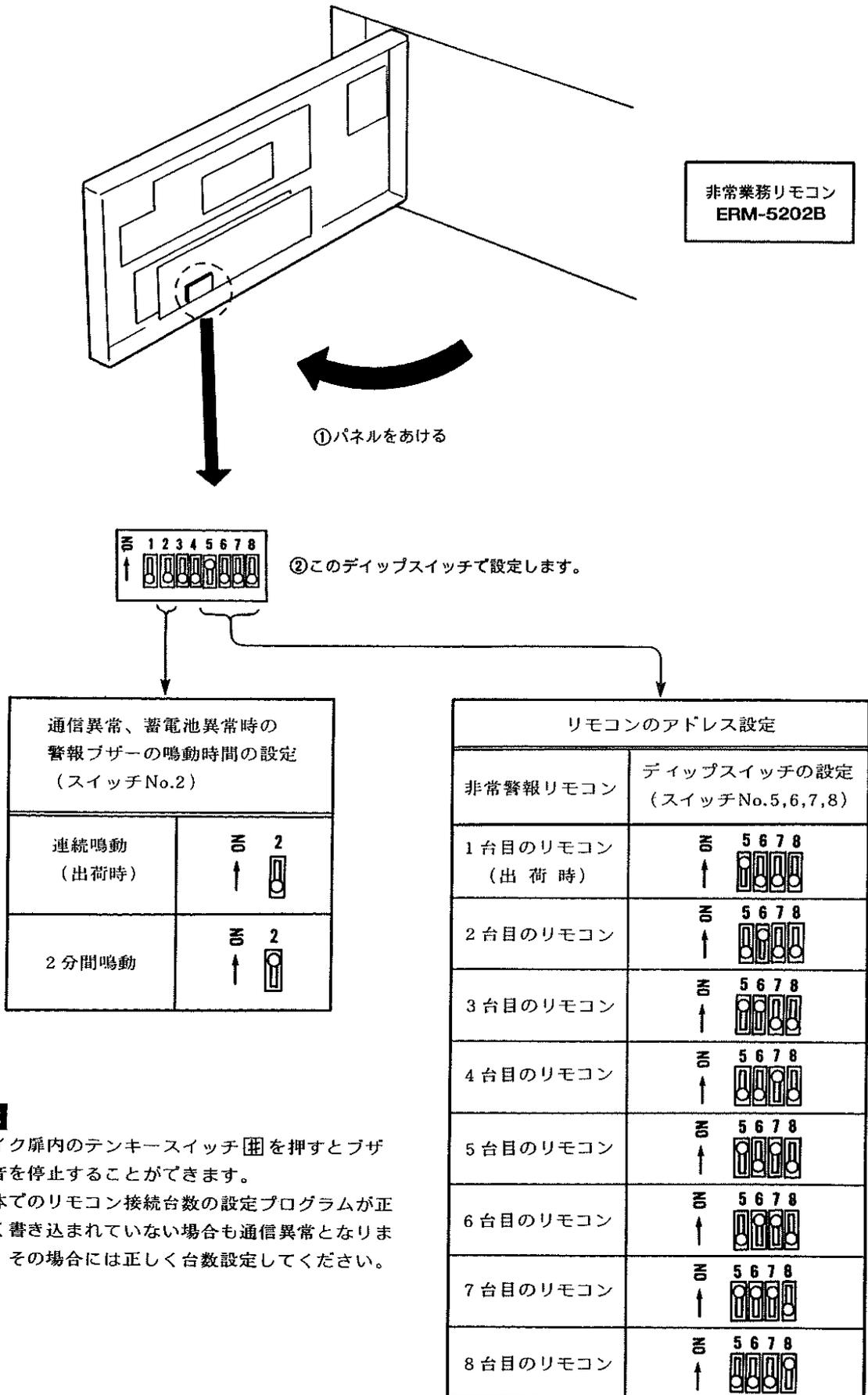
- ① ラック形非常放送アンプ本体の非常業務操作ユニット(REE-5202B)のパネルをあげ、内部のディップスイッチで使用するリモコンの台数を設定します。
設定するディップスイッチは2ヶ所あります。



使用リモコン台数	ディップスイッチの設定
1	ON1 2345678 ↑ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
2	ON1 2345678 ↑ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
3	ON1 2345678 ↑ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
4	ON1 2345678 ↑ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
5	ON1 2345678 ↑ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
6	ON1 2345678 ↑ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
7	ON1 2345678 ↑ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
8	ON1 2345678 ↑ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

本リモコンでもアドレス設定（2台目以降のとき）および通信異常、蓄電池異常時の警報ブザーの鳴動時間の設定（2分間鳴動にするとき）があります。

次の手順で設定してください。



ご注意

- マイク扉内のテンキースイッチ を押すとブザー音を停止することができます。
- 本体でのリモコン接続台数の設定プログラムが正しく書き込まれていない場合も通信異常となります。その場合には正しく台数設定してください。

取付、接続が完了したら

•取付、接続が完了したら、次の手順で電源を投入し、動作の確認を行なってください。

- ① 初期設定を行なってください。 ----- 15ページ参照

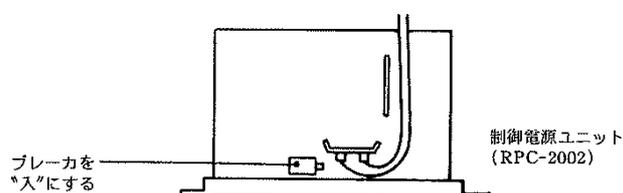


- ② ラック本体の制御電源ユニット(RPC-2002)に主電源AC100Vを供給してください。

(ラック形非常放送アンプの設置要領書をご参照ください。)



- ③ ラック本体の制御電源ユニット(RPC-2002)内のブレーカを「入」にしてください。



•異常が点灯しましたらLCD画面の指示に従ってチェックしてください。

- ④ 本機(非常業務リモコン)でLCD画面とテンキーを使って設定を行なってください。

•設定する内容としかたは本機に付属の「書き込みのしかた」(別冊)をご参照ください。



- ⑤ 取扱説明書に従って動作確認を行なってください。

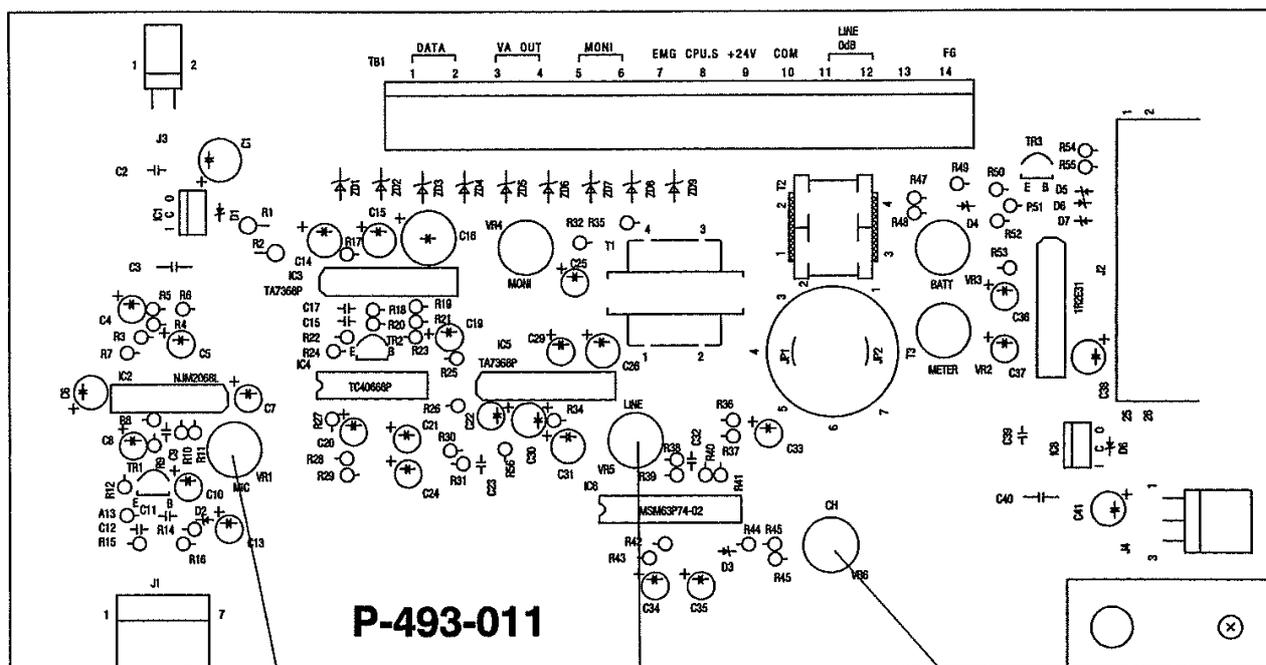
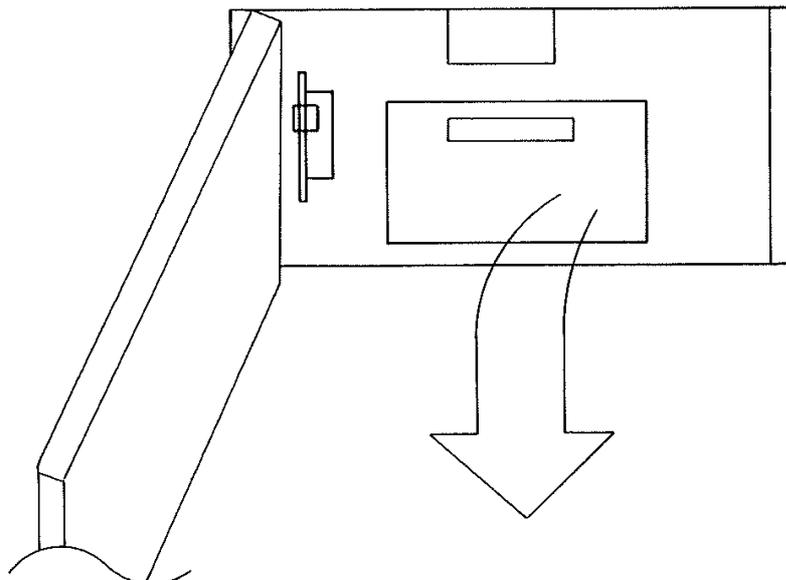
調整のしかた

非常業務兼用マイク、外部入力、4音チャイムの音量の調整

•非常業務兼用マイク、外部入力、4音チャイムの音量は、出荷時定格(AC100V)できるように調整されています。これらの音量を調整する場合(特に小さくて大きくする場合)は、いま一度下記の事項の点検を行なってください。

- ① スピーカが過負荷になっていませんか……スピーカのワットの合計値はアンプの出力(ワット)合計値以下でなければなりません。
- ② スピーカアッテネータが正しく選定、接続されていますか……使用スピーカに適合したアッテネータが必要です。
誤接続されると業務放送も影響をうけます。
- ③ アンプの出力が定格出ていますか……特に既設の電力増幅器を使うような場合、電力増幅器の入力感度調整が不適切ですと定格(AC100V)出ないことがあります。入力を大きくしすぎると他の正常な電力増幅器にとって過入力となります。

•非常・業務兼用マイク、外部入力および4音チャイムの音量は、リモコン内部の半固定ボリュームで調整できます。



MIC(マイク用)
非常業務兼用マイクの音量を調整できます。

LINE(外部入力用)
外部入力の音量を調整できます。

CH(チャイム用)
4音チャイムの音量を調整できます。

製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニパック株式会社